Contents

オペラ芸術監督　大野和士 …… 2

2025/2026シーズン　オペラ　ラインアップ …… 4

ラ・ボエーム …… 5

ヴォツェック …… 10

オルフェオとエウリディーチェ …… 16

こうもり …… 20

リゴレット …… 26

ドン・ジョヴァンニ …… 32

椿姫 …… 38

愛の妙薬 …… 42

ウェルテル …… 46

エレクトラ …… 51

令和7年度公演 …… 57

新国立劇場 こどものためのオペラ劇場 2025
オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん …… 58

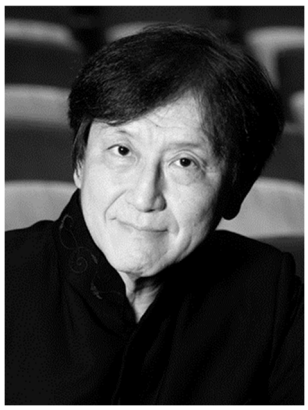
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025
（新国立劇場公演）
蝶々夫人 …… 62

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025
（ロームシアター京都公演）
魔笛 …… 64

公演一覧（1997.10～2025.8） …… 67

※本資料中のスタッフ・キャストは全て予定であり、変更される可能性がございます。
何卒ご承知おきください。

2025/2026 シーズン オペラ
オペラ芸術監督　大野和士



オペラを愛するすべての皆様へ

2025/2026 シーズンに新制作でお届けするのは、20 世紀前半にドイツで初演され、センセーションを巻き起こした二つのオペラ――アルバン・ベルク『ヴォツェック』、そしてリヒャルト・シュトラウス『エレクトラ』――です。

今年没後 90 周年を迎えるベルクが完成させた唯一のオペラ『ヴォツェック』。夭折した作家ビューヒナーが、1830 年代に実際に起きた殺人事件を題材に、社会の底辺で精神を病み、内縁の妻を殺して破滅していく男を描いた原作を、1 世紀近く経ってベルクが無調音楽で作曲したオペラです。新国立劇場で初の新演出に臨むのは、巨匠リチャード・ジョーンズ。私は音楽監督を務めていたモネ劇場での『炎の天使』、スカラ座の『ムツェンスク郡のマクベス夫人』で一緒に仕事する機会に恵まれましたが、緻密でありながら、それをはるかに超越したエネルギーによって観る者を劇場空間の心理劇に引きずり込む手腕は、本当に圧巻でした。今回も狂気をテーマにした心理劇をリチャードがどう描いていくのか、私自身も大変楽しみです。ヴォツェック役はトーマス・ヨハネス・マイヤー、マリーにジェニファー・デイヴィス、鼓手長にジョン・ダザック、大尉はアーノルド・ベズイエンと当代随一と言える歌手が集まります。

『ヴォツェック』初演のほぼ 15 年前に初演されたのが、リヒャルト・シュトラウスの『エレクトラ』。愛する父を母とその愛人に殺された娘エレクトラが凄惨な復讐を果たすギリシャ悲劇の演出を、新国立劇場初登場の演出家ヨハネス・エラートが手がけます。彼はウィーン・フォルクスオーパーとウィーン・フィルのアカデミーでオーケストラ奏者として活躍し、その後演出家に転向したという異色の経歴の持ち主です。私はフランクフルト歌劇場で『Der Mieter（借家人）』というドイツ現代作曲家の世界初演を共に手がけましたが、プロの音楽家としてスコアを読み解いた上での彼の演出アプローチは、オペラという総合芸術に限りない力を発揮しました。音楽と言葉がまさに一体となった、シュトラウスとホフマンスタールのコンビの第一作目『エレクトラ』にご期待ください。エレクトラはバイロイト音楽祭にも出演しているアイレ・アッソーニ、母クリテムネストラは藤村実穂子、弟オレストにエギルス・シリンス、義父エギストは『ボリス・ゴドゥノフ』で陰惨な簒奪者グリゴリーを演じた工藤和真です。

レパートリー作品としては、シーズン開幕には“青春讃歌”『ラ・ボエーム』。おなじみの名指揮者パオロ・オルミ、ミミはマリーナ・コスタ＝ジャクソン。彼女の豊かで多様な感情を表現する声が新国立劇場に響くのが楽しみです。ロドルフォ役のルチアーノ・ガンチ、マルチェッロ役のマッシモ・カヴァレッティら男声歌手たちのアンサンブルも必聴です。

『オルフェオとエウリディーチェ』は勅使川原三郎の演出で、音楽と空間が素晴らしい調和、舞踊も圧巻のプロダクション。作品全編を牽引するオルフェオ役に、アルト歌手のサラ・ミンガルドが初登場。カウンターテナーによる上演と比べると、あたかも別の作品かと感じるかもしれません。指揮は、オペラに魂を注いでいる園田隆一郎です。

『こうもり』は 1874 年に初演されましたが、ウィーンではその 1 年前に万国博覧会が開かれ、その直後に金融危機に見舞われました。このオペレッタは揺れ動く時代を反映しているといえます。指揮ダニエル・コーエン、トーマス・ブロンデル、サビーナ・ツヴィラクらに加え、私たちの誇るカウンターテナー藤木大地がオルロフスキー公として、皆様を煌びやかな夜会にお招きします。

『リゴレット』で主役を歌うのは、世界をリードする名バリトン、ウラディーミル・ストヤノフ。彼のリゴレットの内面的深さを自然と想像してしまいます。ジルダは年々大きな飛躍を続けている中村恵理。マントヴァ公は、『ルチア』のエドガルドを歌ったローレンス・ブラウンリー。指揮のダニエレ・カッレガーリと共に、役者が揃いました。

『ドン・ジョヴァンニ』は登場人物一人一人に個性を求められるだけに、ヴィート・プリアンテ、ダニエル・ジュリアニーニ、イリーナ・ルング、サラ・コルトレツィス……ソロの秀でた声、それが混ざり合う妙味を飯森範親の指揮がドラマと結びつけます。

『椿姫』のカロリーナ・ロペス・モレノは、近年国際舞台に躍り出て、急速にキャリアを伸ばしているソプラノです。並外れた感情表現と称賛される彼女のヴィオレッタを聴けることは、喜ばしい限りです。アルフレードにアントニオ・コリアーノ、ジェルモンは名歌手ロベルト・フロンターリです。

『愛の妙薬』を作曲したドニゼッティは、たいへん貧しい家に生まれ、幼い頃から慈善音楽学校に通い教育を受けました。その後のドニゼッティの発展を見ると、早くからの教育が才能ある子に与えた影響はよほど大きなものがあったと思わざるを得ません。彼が 20 代から始めたオペラ作曲の 40 番目が『愛の妙薬』でした。アディーナ役のフランチェスカ・ピア・ヴィターレに、マッテオ・デソーレ、シモーネ・アルベルギーニの３人と彼らを翻弄するドゥルカマーラ役のマルコ・フィリッポ・ロマーノの愉快な争いにご注目。

『ウェルテル』はマスネの名作。ウェルテル役には、世界的スター、チャールズ・カストロノーヴォの新国立劇場初登場です。シャルロット役は、同じく世界的に活躍する脇園彩、指揮は、才能あふれるアンドリー・ユルケヴィチです。

新国立劇場 2025/2026 シーズンに皆様をお迎えすることを心から願っております。

〈プロフィール〉
東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドンの夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』『トリスタンとイゾルデ』『ウィリアム・テル』を指揮している。本年8月に『ナターシャ』を、25/26シーズンは『ヴォツェック』『エレクトラ』を指揮する予定。

2025/2026 シーズン　オペラ　ラインアップ

〈新制作2演目／レパートリー8演目　合計10演目46公演〉

2025 年 10 月

ラ・ボエーム

La Bohème｜G．プッチーニ

5回公演

2025 年 11 月　新制作

ヴォツェック

Wozzeck｜A．ベルク

5回公演

2025 年 12 月

オルフェオとエウリディーチェ

Orfeo ed Euridice｜C．W．グルック

3回公演

2026 年 1 月

こうもり

Die Fledermaus｜J．シュトラウスⅡ世

5回公演

2026 年 2 月～3 月

リゴレット

Rigoletto｜G．ヴェルディ

5回公演

2026 年 3 月

ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni｜W．A．モーツァルト

5回公演

2026 年 4 月

椿姫

La Traviata ｜G．ヴェルディ

5回公演

2026 年 5 月

愛の妙薬

L'elisir d'amore｜G．ドニゼッティ

4回公演

2026 年 5 月

ウェルテル

Werther｜J．マスネ

4回公演

2026 年 6 月～7 月　新制作

エレクトラ

Elektra｜R．シュトラウス

5回公演

2025 年 10/1～10/11
＜レパートリー＞
Repertory

ラ・ボエーム

La Bohème

●会員先行販売期間：2025年7/20（日）～8/5（火）
●一般発売日：2025年8/9（土）

オペラパレス｜ 5回公演 ｜ 全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1896年2月1日／トリノ王立歌劇場
作曲：ジャコモ・プッチーニ
原作：アンリ・ミュルジェ
台本：ジュゼッペ・ジャコーザ／ルイージ・イッリカ

プロダクションについて

19世紀パリを舞台に、詩人ロドルフォとお針子ミミの儚い愛、そして明日の成功を夢見る若き芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた青春オペラ『ラ・ボエーム』。プッチーニの甘美な旋律がとびきりロマンティックな物語を紡ぐ、永遠のラブストーリーです。「冷たい手を」「私の名はミミ」の名アリアによって綴られる第１幕の出会いのシーンは、数あるオペラのラブシーンの中でも最も美しい、決定的名場面。そしてクリスマスのパリのカルチェ・ラタンの賑わいを描いた第２幕、雪の降りしきる中、別れを決意した恋人たちの美しくも悲しい四重唱、そして涙を禁じえないラストシーンと、見どころは枚挙にいとまがありません。

栗國淳演出の舞台は豪華にして繊細で、パリの街を俯瞰するような美術が大きな見どころ。そして丁寧な心理描写で若者たちの愛と喪失の物語を映画のように描き出し、深い感動を誘います。

ヒロインのミミには情感豊かな表現を得意とし、ドラマティックな役柄へも活躍を拡げるマリーナ・コスタ＝ジャクソンが登場。ロドルフォに輝かしい声で魅了するトップテノール、ルチアーノ・ガンチ、マルチェッロにはイタリアの実力派マッシモ・カヴァレッティが出演。指揮は名匠パオロ・オルミが嬉しい再登場となります。

2012 年公演より

あらすじ

【第1幕】若き詩人ロドルフォ、画家マルチェッロ、音楽家ショナール、哲学者コッリーネは、成功を夢見て、パリの屋根裏部屋で暮らしている。薪も買えず、原稿を燃やして暖を取るほど貧しいが、クリスマス・イブの今日はショナールの得た報酬でディナーへ出かける。ロドルフォだけが急ぎの原稿を仕上げるため部屋に残る。すると隣の部屋に住むお針子ミミが火を分けてほしいとやってくる。ミミは火をもらって帰ろうとしたとき鍵を落としたことに気づく。火の消えた闇の中、鍵を探すうちに二人の手が触れ合い、恋に落ちる。

【第2幕】カフェ・モミュスで仲間と合流したロドルフォはミミを紹介する。そこへマルチェッロの元恋人ムゼッタが、新しいパトロンの老人アルチンドロとやってくる。マルチェッロの気を引くためムゼッタはわざと大げさに振る舞うが、マルチェッロは無視。しかし、ついにはアルチンドロを追い払い、二人はめでたくよりを戻す。

【第3幕】雪降る夜明け。ロドルフォの態度に悩むミミは、マルチェッロの働く酒場へ向かう。店にはロドルフォがいて、マルチェッロに語り出す。自分の稼ぎでは病のミミの治療代を払えない、だからミミが離れるようわざと冷たく当たっているのだと。ミミは身を引く決意をする。マルチェッロはムゼッタの浮気を疑いけんか別れする。

【第4幕】ロドルフォとマルチェッロは元恋人に想いを馳せて仕事がはかどらない。ショナールとコッリーネと共に騒いでいると、ムゼッタが瀕死のミミを連れてくる。皆で所持品を質に入れて薬代にしようとするが、時すでに遅く、ミミは、望み通りロドルフォの側で息を引き取る。

ジャコモ・プッチーニ

ラ・ボエーム

Giacomo Puccini / La Bohème

全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	パオロ・オルミ Paolo OLMI
演出 Production	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	粟國　淳 AGUNI Jun
美術 Set Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	パスクアーレ・グロッシ Pasquale GROSSI
衣裳 Costume Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アレッサンドロ・チャンマルーギ Alessandro CIAMMARUGHI
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	笠原俊幸 KASAHARA Toshiyuki
ミミ Mimì	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マリーナ・コスタ＝ジャクソン Marina COSTA-JACKSON
ロドルフォ Rodolfo	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ルチアーノ・ガンチ Luciano GANCI
マルチェッロ Marcello	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マッシモ・カヴァレッティ Massimo CAVALLETTI
ムゼッタ Musetta	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	伊藤 晴 ITO Hare
ショナール Schaunard	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	駒田敏章 KOMADA Toshiaki
コッリーネ Colline	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アンドレア・ペレグリーニ Andrea PELLEGRINI
ベノア Benoit	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	志村文彦 SHIMURA Fumihiko
アルチンドロ Alcindoro	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	晴　雅彦 HARE Masahiko
パルピニョール Parpignol	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	高畠伸吾 TAKABATAKE Shingo
合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
児童合唱 Children Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	世田谷ジュニア合唱団 Setagaya Junior Chorus
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2025年	10月	1日（水）18:00	4日（土）14:00
		7日（火）13:00（貸切）	9日（木）14:00
		11 日（土）13:00	

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:パオロ・オルミ
Conductor : Paolo OLMI

英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、リヨン歌劇場、サンタ・チェチーリア管弦楽団、フィレンツェ歌劇場など世界各地で活躍。1990～93年、RAI交響楽団音楽監督、2006～11年、ナンシー歌劇場及び同交響楽団音楽監督。02年からロンドン・ギルドホール音楽演劇学校客員教授、18年から北京大学オペラ・アカデミー客員教授。中国で指揮した初のイタリア人指揮者であり、インド、レバノン、オマーン、キューバなどへイタリア・オペラを紹介。ヨハネ・パウロ2世のローマ法王就任20周年祝賀コンサートは全世界に中継される。近年はイスラエル、パレスチナ自治政府、RAI（イタリア放送協会）、イタリア文化観光省の協力によるクリスマス／イースター・コンサートにも尽力、ベツレヘムのカリタス小児科病院などを支援する募金活動を行うなど、音楽やコラボレーションを通じて、異民族、異なる宗教間の平和と対話に貢献することを目指す。12年には英国におけるイタリア・オペラの普及活動により女王賞を授与された。新国立劇場へは99年『仮面舞踏会』でデビューし、『ナブッコ』『ルチア』『愛の妙薬』『ドン・ジョヴァンニ』を指揮している。

演出:粟國 淳
Production : AGUNI Jun

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H.ブロックハウスのもとで研鑽を積み、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。1997年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイーダ』『オテロ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』『ノルマ』、日生劇場『アイナダマール』（日本初演）『セビリアの理髪師』『マクベス』、紀尾井ホール『オリンピーアデ』など多数の作品を演出。海外ではサッサリ・ヴェルディ劇場『アンドレア・ シェニエ』『エルナーニ』、スロヴェニア国立マリボール歌劇場『ホフマン物語』を演出。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』『フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ』『チェネレントラ』『修道女アンジェリカ／子どもと魔法』などを演出。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所プログラムアドバイザー兼アルテ・シェニカ講師。エクソンモービル音楽賞奨励賞受賞。

ミミ:マリーナ・コスタ＝ジャクソン（ソプラノ）
Mimì: Marina COSTA-JACKSON

アメリカ、ヨーロッパやアジアで活躍するソプラノ。2016年オペラリア・コンクール第2位など受賞多数。これまでにグレンジ・パーク・オペラ『ドン・カルロ』エリザベッタ、サヴォンリンナ音楽祭、ボリショイ・オペラ『オテロ』デズデーモナ、リスボン・サン・カルロス劇場、ケルン歌劇場『椿姫』ヴィオレッタ、ダラス・オペラ『ノルマ』アダルジーサ、ケルン歌劇場、メトロポリタン歌劇場『ラ・ボエーム』ミミ、パリ・オペラ座『カルメン』ミカエラなどに出演。最近では、サンディエゴ・オペラ『修道女アンジェリカ』タイトルロールと『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、ノースカロライナ・オペラ『マノン・レスコー』タイトルロール、ユタ・オペラ『ラ・ボエーム』ムゼッタ、カンザスシティ・リリック・オペラ『トスカ』タイトルロール、ロサンゼルス・オペラ『ラ・ボエーム』ミミ、シアトル・オペラ『エウゲニ・オネーギン』タチヤーナなどに出演。24/25シーズンは英国ロイヤルオペラ『ホフマン物語』ジュリエッタ、バーリ・ペトルッツェッリ劇場『トスカ』、ナッシュビル・オペラ『カルメン』ミカエラなどに出演する。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ロドルフォ：ルチアーノ・ガンチ（テノール）
Rodolfo : Luciano GANCI

ローマ出身。2007年オペラリア・コンクール入賞。ミラノ・スカラ座、サン・カルロ歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭、ボローニャ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、フィレンツェ歌劇場などで活躍。近年では、ローマ歌劇場（『アイーダ』『道化師』『蝶々夫人』）、バルセロナ・リセウ大劇場（『アイーダ』）、ボローニャ歌劇場（『アンドレア・シェニエ』「ヴェルディ・ガラ」『蝶々夫人』）、ウィーン国立歌劇場（『アドリアーナ・ルクヴルール』『トスカ』）などで成功を収める。24年はボローニャ歌劇場『マノン・レスコー』デ・グリュー、ピアチェンツァ市立劇場『二人のフォスカリ』ヤコポ・フォスカリ、ノルウェー国立オペラ『蝶々夫人』、ザルツブルク・イースター音楽祭『レクイエム』、東京・春・音楽祭『アイーダ』、デュッセルドルフ・ライン・ドイツ・オペラ『ドン・カルロ』、ルッカでのコンサート「プッチーニ・セコンド・ムーティ」、カラカラ浴場音楽祭『トゥーランドット』、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場『スティッフェリオ』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『マクベス』『アッティラ』に出演。ヴェルディのレパートリーは20に及ぶ。新国立劇場では23年『シモン・ボッカネグラ』ガブリエーレ・アドルノで絶賛を博した。

マルチェッロ：マッシモ・カヴァレッティ（バリトン）
Marcello : Massimo CAVALLETTI

イタリア出身。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場などに次々と出演。2004年にスカラ座アカデミー制作公演にデビューして以来、スカラ座に『セビリアの理髪師』フィガロ、『ドン・カルロ』ロドリーゴ、『ラ・ボエーム』ショナール／マルチェッロ、『ルチア』エンリーコなどで出演を重ねる。チューリヒ歌劇場では『ラ・ボエーム』『ルチア』『カルメン』『シモン・ボッカネグラ』『ファルスタッフ』などに出演。英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』マルチェッロ、メトロポリタン歌劇場『カルメン』エスカミーリョをはじめ、ウィーン国立歌劇場、オランダ国立オペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、モネ劇場、ザルツブルク音楽祭などへ『カルメン』エスカミーリョ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『ファルスタッフ』フォード、『マノン・レスコー』レスコー、『シモン・ボッカネグラ』パオロなどの役で出演し、出演作の多くの録音・録画がリリースされている。新国立劇場へは15年『ファルスタッフ』フォードに出演して以来の登場。

ムゼッタ：伊藤　晴（ソプラノ）
Musetta : ITO Hare

三重大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第25期生修了。ミラノ、パリで研鑽を積み、13年パリ地方音楽院修了。第9回藤沢オペラコンクール第2位。小澤征爾音楽塾子どものためのオペラ『子どもと魔法』『ジャンニ・スキッキ』などに出演。藤原歌劇団には『ラ・ボエーム』ムゼッタでデビューし、『カルメン』『ラ・トラヴィアータ』『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』を東京・愛知公演で熱演。藤原歌劇団・NISSAY OPERA 2021『蝶々夫人』ではタイトルロールを務め、その後同役は青森・宮城・群馬・高知・広島・三重公演でも絶賛を浴びた。24年には藤原歌劇団・NISSAY OPERA2024『ピーア・デ・トロメイ』ピーアが称賛を集める。また日本オペラ協会には『天守物語』亀姫でデビューし、『夕鶴』つうも見事に演じた。新国立劇場では『修道女アンジェリカ』オスミーナ、『こうもり』イーダ、『夢遊病の女』リーザに出演、24/25シーズン『カルメン』ミカエラ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』タイトルロールに出演予定。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。愛知県立芸術大学、武蔵野音楽大学各講師。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ショナール：駒田敏章（バリトン）
Schaunard : KOMADA Toshiaki

愛知教育大学を経て東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期生としてオペラを学ぶ。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教師などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンに留学。12年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭にラヴェル『スペインの時』ラミーロで出演し、Labberte-Hoedemaker Awardを受賞。第83回日本音楽コンクール(歌曲)第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアン、『ジュリオ・チェーザレ』クーリオ、『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチ/役人、『ラ・ボエーム』ショナール、『トリスタンとイゾルデ』舵取り、『魔笛』パパゲーノに出演。25/26シーズン『ラ・ボエーム』ショナール、『ウェルテル』ジョアン、高校生のためのオペラ鑑賞教室2025ロームシアター京都公演『魔笛』パパゲーノに出演予定。

コッリーネ：アンドレア・ペレグリーニ（バス）
Colline : Andrea PELLEGRINI

パルマのボーイト音楽院を2014年に卒業。16年～18年、バレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿のプラシド・ドミンゴセンターに参加し、同劇場のオペラに数多く出演。パルマ王立歌劇場、レッジョ・エミリア歌劇場などで『トスカ』アンジェロッティ、『セビリアの理髪師』フィオレッロに出演するほか、パルマのヴェルディ音楽祭で『椿姫』『ファルスタッフ』『シモン・ボッカネグラ』『運命の力』などに出演。パルマ王立歌劇場『リア王』ではタイトルロールに出演した。その後パレルモ・マッシモ劇場『エルナーニ』『シチリアの晩鐘』、パルマ王立歌劇場『ペレアスとメリザンド』、モデナ歌劇場『ドン・カルロ』などに出演。22年にはミラノ・スカラ座のシーズン開幕作品『マクベス』医師に出演し、その後同劇場で『シチリアの晩鐘』ベトゥーネ卿、『フェドーラ』チリッロ、『シモン・ボッカネグラ』ピエトロなどに出演。最近の出演に、モデナ歌劇場『清教徒』ヴァルトン卿、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』ピエトロなどがある。新国立劇場初登場。

2025 年 11/15～11/24
＜新制作＞
New Production

ヴォツェック

Wozzeck

●会員先行販売期間：2025年8/23（土）～9/9（火）
●一般発売日：2025年9/13（土）

オペラパレス｜ 5回公演 ｜ 全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1925年12月14日／ベルリン国立歌劇場
作曲・台本：アルバン・ベルク
原作：ゲオルク・ビューヒナー

プロダクションについて

大野和士芸術監督が上演に注力する20世紀オペラから、『ヴォツェック』を新制作します。新ウィーン楽派の作曲家アルバン・ベルクが唯一完成させたオペラ『ヴォツェック』は、貧困にある兵士の精神的不安と破滅を描く衝撃的な作品で、20世紀オペラの金字塔として世界中で上演が繰り返されている人気作です。原作はゲオルク・ビューヒナー（1813～1837）が執筆した未完の戯曲で、1821年にライプツィヒで起きた殺人事件の加害者ヴォイツェックの精神鑑定の記録をもとに書かれました。1914年にウィーンで上演された演劇を観たベルクはオペラ化を構想したものの、翌年第一次世界大戦に徴兵され、除隊後1917年から21年になって作曲した『ヴォツェック』は自身の厳しい軍隊生活の経験も重ねて書かれたと言われています。ベルクはシュプレヒゲザング、シュプレヒシュティンメと言われる歌と語りの中間の技法を使い、演劇的緊張感が張り詰める中で、貧困から逃れられない男が妻の不倫をきっかけに転落していく物語を一気に語ります。

演出を手掛けるのは、英国が生んだカリスマ演出家リチャード・ジョーンズ。高度な演奏技術が要求される難役ヴォツェック役には、新国立劇場で2009年にも同役を歌った世界的スター、トーマス・ヨハネス・マイヤーが出演。大尉役にはキャラクター・テノールの世界最高峰アーノルド・ベズイエン、鼓手長には同役を特に得意とするジョン・ダザック、マリー役にはドラマティックな表現で活躍するジェニファー・デイヴィスが出演します。指揮は大野和士芸術監督が自らあたります。

あらすじ

【第1幕】理髪師から兵士になった実直なヴォツェックは、内縁の妻マリーとの間に一人息子がいるが、貧しい生活を強いられていた。彼は上官の大尉の髭を剃ったり、誇大妄想気味の医者の人体実験のアルバイトをしたりして小銭稼ぎをしている。そのためヴォツェックの精神状態は不安定で、不気味な幻覚を見ては妄想に苛まれていた。妻のマリーはヴォツェックとの暮らしに疲れ、猛々しい肉体の持ち主である鼓手長に惹かれ、やがて不倫関係に陥る。

【第2幕】ヴォツェックはある日、耳飾りを手に女性らしく華やいでいるマリーを見て不審を抱く。それは鼓手長からの贈り物だった。やがてヴォツェックの猜疑心は高まり、妻を詰問するがしらを切られる。ついに居酒屋で鼓手長がマリーと嬉しそうに踊っている現場を押さえたヴォツェック。ヴォツェックは鼓手長に絡まれ取っ組みあいになるが、袋だたきにされ、痛めつけられる。

【第3幕】信心深いマリーは自分の罪を悔いて神に祈る。しかし赤い月が昇る沼のほとりで、錯乱気味のヴォツェックに刺し殺されてしまう。凶器のナイフを捨てて逃げたヴォツェックは、苦しみを紛らわそうと居酒屋で享楽に耽るが、シャツの血痕を見つけられ外に飛び出す。再び沼のほとり。ヴォツェックは証拠のナイフを沼の奥深くに投げ入れようとして溺れ死ぬ。翌朝、マリーの死骸が見つかる。遊んでいた子ども達が、マリーの息子に「君のお母さん、死んだよ」と告げて沼へ向かうが、意味が呑み込めない息子は一人遊びに興じている。

アルバン・ベルク

ヴォツェック

Alban Berg / Wozzeck

全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	大野和士 ONO Kazushi
演出 Production	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	リチャード・ジョーンズ Richard JONES
美術・衣裳 Set and Costume Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アントニー・マクドナルド Antony McDONALD
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ルーシー・カーター Lucy CARTER
ヴォツェック Wozzeck	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	トーマス・ヨハネス・マイヤー Thomas Johannes MAYER
鼓手長 Tambourmajor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ジョン・ダザック John DASZAK
アンドレス Andres	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	伊藤達人 ITO Tatsundo
大尉 Hauptmann	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アーノルド・ベズイエン Arnold BEZUYEN
医者 Doktor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
第一の徒弟職人 1. Handwerksbursch	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	大塚博章 OTSUKA Hiroaki
第二の徒弟職人 2. Handwerksbursch	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	萩原　潤 HAGIWARA Jun
白痴 Der Narr	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	青地英幸 AOCHI Hideyuki
マリー Marie	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ジェニファー・デイヴィス Jennifer DAVIS
マルグレート Margret	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	郷家暁子 GOKE Akiko
合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
児童合唱 Children's Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	TOKYO FM 少年合唱団 TOKYO FM Boys Choir
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

2025年	11月	15日（土）14:00	18日（火）14:00
		20日（木）19:00	22日（土）14:00
		24 日（月・休）14:00	

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

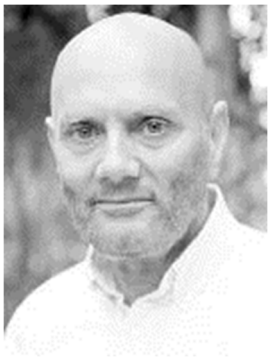
【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

指揮:大野和士
Conductor : ONO Kazushi

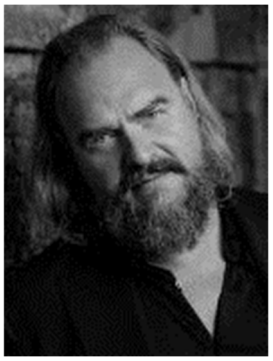
東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドンの夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』『ウィリアム・テル』を指揮している。本年8月に『ナターシャ』を、25/26シーズンは『ヴォツェック』『エレクトラ』を指揮する予定。

演出:リチャード・ジョーンズ
Production : Richard JONES



ロンドン出身。国際的な舞台で30年以上に渡りオペラや演劇の演出を手掛ける演出家。英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』『ボリス・ゴドゥノフ』『ニーベルングの指環』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『子どもと魔法』『賭博者』『アンナ・ニコル』『三部作』、イングリッシュ・ナショナル・オペラ（ENO）『The Plumber's Gift』『３つのオレンジへの恋』『ルル』『トロイ人』『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』、ワシントン・ナショナル・オペラ／ENO『ヘンゼルとグレーテル』『スペードの女王』『ヴォツェック』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』などのほか、グラインドボーン音楽祭、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、エクサン・プロヴァンス音楽祭、オランダ国立オペラ、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、フランクフルト歌劇場などでオペラを演出。オリヴィエ賞に９回輝き、最近では英国ロイヤルオペラ『アルチーナ』で同賞を受賞。英国ロイヤルオペラ『カーチャ・カバノヴァー』、ENO『ラインの黄金』でサウスバンク賞受賞。最近の演出作品に、シアター・ロイヤル・バス／オールド・ヴィック・シアター『Machinal』、シアター・ロイヤル・バス『The Birthday Party』、パーク・アヴェニュー・アーモリー『Judgment Day』、オールド・ヴィック・シアター『Endgame』がある。新国立劇場へは『ムツェンスク郡のマクベス夫人』以来2回目の登場。

ヴォツェック:トーマス・ヨハネス・マイヤー（バリトン）
Wozzeck : Thomas Johannes MAYER



ドイツのバリトン。オランダ国立オペラ、モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、チューリヒ歌劇場、ウィーン国立歌劇場、バイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭などに『影のない女』バラク、『サロメ』ヨハナーン、『アラベッラ』マンドリカ、『パルジファル』アムフォルタス、『ローエングリン』テルラムント、『ニーベルングの指環』ヴォータン／さすらい人など、シュトラウスとワーグナーを中心としたレパートリーで出演を重ねる。最近ではオランダ国立オペラ『ローエングリン』テルラムント、『マハゴニー市の興亡』モーゼス、バイロイト音楽祭『さまよえるオランダ人』オランダ人、テアトロ・レアル『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、チューリヒ歌劇場『トスカ』スカルピアなどに出演。新国立劇場へは09年『ヴォツェック』タイトルロールでデビューし、『アラベッラ』マンドリカ、『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックスに出演、本年2月には『フィレンツェの悲劇』シモーネに出演。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

鼓手長：ジョン・ダザック（テノール）
Tambourmajor : John DASZAK

イギリス出身。多彩な声とドラマティックで力強い表現で知られ、世界の主要劇場で活躍。バイロイト音楽祭に『ラインの黄金』ローゲ、ベルリン州立歌劇場へ『ヴォツェック』鼓手長、ミラノ・スカラ座へ『ピーター・グライムズ』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場へ『ビリー・バッド』ヴィア艦長役でデビュー。最近の出演作にチューリヒ歌劇場『烙印を押された人々』、ザルツブルク音楽祭／パリ・オペラ座『ヴォツェック』、ザクセン州立歌劇場『画家マティス』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』など。『サロメ』ヘロデは英国ロイヤルオペラでデビュー後、エクサン・プロヴァンス音楽祭、チューリヒ歌劇場、パリ・オペラ座でも演じ好評を博す。ほかにエクサン・プロヴァンス音楽祭『ヤコブ・レンツ』、英国ロイヤルオペラ『エレクトラ』、チューリヒ歌劇場『ボリス・ゴドゥノフ』、パリ・オペラ座『ホヴァンシチナ』などに出演。バイエルン州立歌劇場には『小人』『ヘンゼルとグレーテル』『烙印を押された人々』『ヴォツェック』などに出演を重ねる。2024/25シーズンはジュネーヴ大劇場、チューリヒ歌劇場『サロメ』、バイエルン州立歌劇場『カーチャ・カバノヴァー』、ナポリ・サン・カルロ劇場、ハンブルク州立歌劇場『エレクトラ』、ローマ歌劇場『囚われ人』に出演する。新国立劇場初登場。

アンドレス：伊藤達人（テノール）
Andres : ITO Tatsundo

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第14期修了。文化庁在外研修員としてベルリンにて研鑽を積む。二期会『パルジファル』タイトルロール、『影のない女』皇帝に出演。日生劇場では『ヘンゼルとグレーテル』魔女、『ランメルモールのルチア』アルトゥーロで出演。オペラのほか、15年新国立劇場演劇制作ミュージカル『パッション』にトラッソ中尉で出演。新国立劇場オペラ公演では『夜鳴きうぐいす』漁師、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィット、『こうもり』アルフレード、『さまよえるオランダ人』舵手に出演している。25/26シーズンは『ヴォツェック』アンドレス、『こうもり』アルフレードに出演予定。二期会会員。

大尉：アーノルド・ベズイエン（テノール）
Hauptmann : Arnold BEZUYEN

オランダのテノール。アムステルダムで学んだ後、ウィーン国立歌劇場で『蝶々夫人』ピンカートン、『ナブッコ』イズマエーレ、『オテロ』カッシオ、『椿姫』アルフレード、『魔笛』タミーノ、『さまよえるオランダ人』エリック、『ニーベルングの指環』ジークフリート、ミーメ、ローゲなどに出演。特に『ニーベルングの指環』ミーメ、ローゲ、『サロメ』ヘロデで成功を収め、重要なレパートリーとなる。1998年にはバイロイト音楽祭にローゲ役でデビューし、同音楽祭へはその後18年間出演を続ける。ほかに、オランダ国立オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ウィーン国立歌劇場など世界の主要劇場に出演している。新国立劇場では『ボリス・ゴドゥノフ』シュイスキー公に出演した。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

医者：妻屋秀和（バス）
Doktor : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を100役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイーダ』ランフィス、『リゴレット』スパラフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長／フィリッポ二世、『ラインの黄金』ファーゾルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムール、『夏の夜の夢』クインス、『イオランタ』ルネ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケル、『夢遊病の女』ロドルフォ伯爵、『ウィリアム・テル』ジェスレルなど出演多数。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2024年紫綬褒章受章。

第一の徒弟職人：大塚博章（バス）
1. Handwerksbursch : OTSUKA Hiroaki

玉川大学芸術学科音楽専攻卒業。第42回日伊声楽コンコルソ3位。文化庁派遣芸術家在外研修員としてドイツに留学。びわ湖ホール『シチリアの晩鐘』、二期会で近年では『魔笛』ザラストロ、『ばらの騎士』オックス男爵などに出演。新国立劇場では『サロメ』2人の兵士1、『トスカ』シャルローネ、『ドン・カルロ』修道士、『マノン・レスコー』軍曹、『魔笛』武士Ⅱ、『タンホイザー』ラインマル、『ジャンニ・スキッキ』シモーネ、『夏の夜の夢』シーシアス、『イオランタ』ベルトラン、『ばらの騎士』警部、『ボリス・ゴドゥノフ』ミチューハ、鑑賞教室『カルメン』スニガ、コンサート・オペラ『ペレアスとメリザンド』アルケル、「『ジークフリート』ハイライトコンサート」さすらい人などに出演。二期会会員。

第二の徒弟職人：萩原　潤（バリトン）
2. Handwerksbursch : HAGIWARA Jun

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。ベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学大学院で学ぶ。二期会オペラスタジオ修了。文化庁派遣芸術家在外研修員として渡独。第14回五島記念文化賞新人賞受賞。これまでに『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサー、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵およびフィガロ、『サロメ』ヨカナーン、『こうもり』アイゼンシュタインなどに出演。新国立劇場では『トゥーランドット』ピン、『アラベッラ』ドミニク伯爵、『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ラ・ボエーム』ショナール、『ローエングリン』王の伝令、『魔笛』パパゲーノ、『ヴォツェック』第二の従弟職人、『イェヌーファ』粉屋の親方、『松風』須磨の浦人、『タンホイザー』ビーテロルフ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『フィガロの結婚』フィガロなどに出演。二期会会員。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

白痴：青地英幸（テノール）
Der Narr : AOCHI Hideyuki

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。これまでに『魔笛』タミーノ、ロッシーニ『オテロ』ロドリーゴ、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『カルメン』ドン・ホセなどを演じている。宗教曲ソリストとしても活躍。新国立劇場では『おさん』『ホフマン物語』『ばらの騎士』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『ヴォツェック』『サロメ』『ファルスタッフ』『ジャンニ・スキッキ』『夏の夜の夢』『フィガロの結婚』『夜鳴きうぐいす』『ボリス・ゴドゥノフ』『子どもと魔法』『こうもり』『トリスタンとイゾルデ』『ジークフリート』ハイライトコンサートなど多数出演。25/26シーズンは『ヴォツェック』白痴、『こうもり』ブリント博士に出演予定。成城大学合唱部ヴォイストレーナー。公津の杜男声合唱団指導者。コールペガサス・ヴォイストレーナー。足利オペラ・リリカ専属アーティスト並びに研究科講師。武蔵野音楽大学講師。

マリー：ジェニファー・デイヴィス（ソプラノ）
Marie : Jennifer DAVIS

アイルランドのケア出身。センセーショナルなデビューが続き、その輝くような銀色の声色と劇的な表現で国際的注目を集める。英国ロイヤルオペラのジェット・パーカー・ヤング・アーティスト・プログラムに参加し、ロイヤルオペラで『ローエングリン』エルザ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『魔笛』侍女I、『ポントの王ミトリダーテ』アルバーテ、『イル・トロヴァトーレ』イネスなどに出演。『ローエングリン』エルザで特に高い評価を獲得しており、同役を英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、シュトゥットガルト歌劇場、フランダース・オペラで歌っている。最近の出演作には、ウィーン国立歌劇場『フィデリオ』レオノーレ、ザクセン州立歌劇場『ラインの黄金』フライア、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『ワルキューレ』ヘルムヴィーゲ、アイルランド国立歌劇場『魔笛』パミーナ、オペラ・ノース『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナなどがある。2023/24シーズンにはイングリッシュ・ナショナル・オペラに『イェヌーファ』タイトルロール、アイルランド国立オペラへ『ファウスト』マルグリートでデビューし絶賛される。24/25シーズンには、ベルリン・ドイツ・オペラへ『アラベッラ』タイトルロールで再登場予定。新国立劇場初登場。

マルグレート：郷家暁子（メゾソプラノ）
Margret : GOKE Akiko

東京藝術大学、同大学院オペラ専攻首席修了。学部卒業時に同声会賞、アカンサス音楽賞受賞。二期会オペラ研修所マスタークラス修了時、優秀賞及び奨励賞を受賞。藝大オペラ定期公演『皇帝ティートの慈悲』セストでデビュー。これまでに、『アポロンとヒヤキントス』アポロン、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『カルメン』タイトルロール、日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、二期会『アルチーナ』ブラダマンテ、『金閣寺』娼婦、『修道女アンジェリカ』修練女長、『ルル』ギムナジウムの学生、『こうもり』オルロフスキー、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『パルジファル』小姓／花の乙女、東京・春・音楽祭『ローエングリン』小姓に出演。新国立劇場では『修道女アンジェリカ』修道女長、『エウゲニ・オネーギン』ラーリナに出演した。二期会会員。

2025 年 12/4～12/7
＜レパートリー＞
Repertory

オルフェオとエウリディーチェ

●会員先行販売期間：2025年9/20（土）～10/7（火）
●一般発売日：2025年10/11（土）

Orfeo ed Euridice

オペラパレス｜ 3回公演 ｜ 全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1762年10月5日／ブルク劇場（ウィーン）
作曲：クリストフ・ヴィリバルト・グルック
台本：ラニエリ・カルツァビージ

プロダクションについて

徹底した美意識で世界に名を馳せる舞踊家・勅使川原三郎の演出・振付・美術・衣裳・照明により上演、オペラとダンスが融合した美の世界を現出させた舞台『オルフェオとエウリディーチェ』の再演です。生と死、光と闇を自在に行き来する、緊張感とダイナミズムに満ちた舞台はオペラファン、舞踊ファンに留まらず広くアートファンの心を捉え、上演後のOperaVisionによる配信でも大きな話題を呼びました。

『オルフェオとエウリディーチェ』は、決して振り向いてはならないとの条件のもと、亡くなった妻を連れ戻しに詩人オルフェウスが冥界へ降りて行く、ギリシャ神話のオルフェウス伝説をもとにしたグルックの代表作。音楽と演劇の融合を目指した“オペラの改革者”グルックは劇的緊張に満ちたオペラを完成させ、その演劇的な面白さにより、バロック・オペラの中でも群を抜いて上演頻度の高い人気作となっています。

指揮は特にイタリア・オペラを中核に、日本屈指のオペラ指揮者として躍進する園田隆一郎が担当。注目のオルフェオ役には現代最高峰のアルト歌手サラ・ミンガルド、エウリディーチェにイタリア古楽のスペシャリスト、ジュリア・セメンツァートが登場します。

2022 年公演より

あらすじ

【第1幕】亡き妻エウリディーチェの墓前で、何とか生き返らせようと祈りを捧げるオルフェオの前に、愛の神アモーレが現れる。アモーレはエウリディーチェの復活の可能性を示唆し、全能の神ゼウスの命令として、「オルフェオの歌で地獄の番人を慰めること」「地上に連れ戻すまでは決して彼女の顔を見てはならない、振り返れば彼女は永遠に失われる」と伝える。

【第2幕】冥界の入口には死霊や復讐の女神が待っている。オルフェオは歌で復讐の女神を慰める。エリゼの園で妖精たちと歌っているエウリディーチェを発見したオルフェオは妻の手を取り、彼女を見ないようにして地上へ向かう。

【第3幕】地上へ向かう暗い途上で、エウリディーチェは夫が自分を見ようとしないことに不安を募らせる。「なぜ私を見ないのか」と詰問する妻とゼウスの命令との間で煩悶するオルフェオは、ついに振り返って妻を見てしまう。その瞬間エウリディーチェは絶命する。絶望したオルフェオが自ら命を絶とうとするとアモーレが現れ、「真の愛が示された」とエウリディーチェに命を吹き込む。オルフェオとエウリディーチェは神に感謝する。

クリストフ・ヴィリバルト・グルック

オルフェオとエウリディーチェ

Christoph Willibald von Gluck / Orfeo ed Euridice

全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	園田隆一郎 SONODA Ryuichiro
演出・振付・美術・衣裳・照明 Production, Choreography, Set,Costume and Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	勅使川原三郎 TESHIGAWARA Saburo
アーティスティックコラボレーター Artistic Collaborator	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	佐東利穂子 SATO Rihoko
エウリディーチェ Euridice	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ジュリア・セメンツァート Giulia SEMENZATO
オルフェオ Orfeo	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	サラ・ミンガルド Sara MINGARDO
アモーレ Amore	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	杉山由紀 SUGIYAMA Yuki
合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2025年	12月	4日（木）14:00	6日（土）14:00
		7日（日）14:00	

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:園田隆一郎
Conductor : SONODA Ryuichiro

東京藝術大学音楽学部指揮科、同大学大学院を修了。2002年より文化庁在外派遣研修員、野村国際文化財団、五島記念文化財団の奨学生としてローマに留学。06年、シエナのキジアーナ夏季音楽週間『トスカ』を指揮してデビュー。翌年、藤原歌劇団『ラ・ボエーム』を指揮して日本デビューを果たす。同年夏にはペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』を指揮、その後はトスカーナ管弦楽団、カターニアのベッリーニ大劇場、ボローニャ歌劇場、ジェノヴァ歌劇場、トリエステ歌劇場、フランダース・オペラなど国内外の劇場やオーケストラとの共演を重ねている。第16回五島記念文化賞オペラ新人賞、16回齋藤秀雄メモリアル基金賞、令和4年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。藤沢市民オペラ芸術監督。22年4月よりパシフィックフィルハーモニア東京指揮者。新国立劇場では18年、高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『魔笛』、20年、23年に高校生のためのオペラ鑑賞教室京都公演『魔笛』、24年に高校生のためのオペラ鑑賞教室東京公演『トスカ』を指揮している。

演出・振付・美術・衣裳・照明:勅使川原三郎
Production, Choreography, Set, Costume and Lighting Design : TESHIGAWARA Saburo

ダンサー、振付家、演出家。クラシックバレエを学んだ後、1981年より独自の創作活動を開始。85年、宮田佳と共にダンスカンパニーKARASを設立。以降、KARASと共に世界中の主要なフェスティバルや劇場から招聘され毎年公演を行う。独自のダンスメソッドを基礎に美術と音楽の稀有な才能によって創作を続ける。身体と空間を質的に変化させる唯一無二な身体表現は高い評価と支持を得て、80年代以降、フランクフルトバレエ団、パリ・オペラ座バレエ団をはじめとしたヨーロッパの主要バレエ団に委嘱振付。オペラでは、エクサン・プロヴァンス音楽祭『アシスとガラテア』、フェニーチェ歌劇場『ディドとエネアス』『時と悟りの勝利』(オラトリオ)を演出、ほかにエディンバラ音楽祭やシャンゼリゼ劇場でもオペラ作品を上演。映像やインスタレーション作品の製作など、芸術表現の新たな可能性を開くアーティストとして創作依頼が多数ある。2013年に東京・荻窪に活動拠点として劇場カラス・アパラタスを開設、年間を通して「アップデイトダンス」シリーズとして新作を多数発表している。07年ベッシー賞、芸術選奨文部科学大臣賞、09年紫綬褒章、17年フランス芸術文化勲章オフィシエ、22年ヴェネツィア・ビエンナーレダンス部門金獅子功労賞他、国内外での受賞多数。

アーティスティックコラボレーター:佐東利穂子
Artistic Collaborator : SATO Rihoko

1995年からKARASワークショップに参加。96年より勅使川原三郎振付の全グループ作品に出演。その高度な技術と芸術性が、身体空間の新たな次元を切り開く表現として世界的評価を得ている。近年では勅使川原のアーティスティックコラボレーターを務め、創作においても欠かすことのできない重要な役割を果たしている。2009年に勅使川原ディレクションによる初のソロ作品『SHE-彼女-』を上演。他に『パフューム』『ハリー』(小説「ソラリス」より)そして活動拠点のカラス・アパラタスでのアップデイトダンス公演シリーズでも勅使川原が佐東のために創作したソロ作品が多数ある。勅使川原のダンスメソッドを深く理解しながらも独自の身体性から生み出されるダンスと、美しい存在感は特別な存在として支持され、身体空間の新たな次元を切り開く芸術表現として国際的に注目されている。2019年からは待望されていた振付家としての創作活動を開始。自身初の振付作品『IZUMI』(ソロダンス)、イタリアのアテール・バレットへの振付作品『Traces』は欧州で高い評価を得た。今後は自身の創作活動も続いていく。12年第40回レオニード・マシーン賞、18年芸術選奨文部科学大臣賞他、受賞多数。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

エウリディーチェ:ジュリア・セメンツァート(ソプラノ)
Euridice : Giulia SEMENZATO

特にバロックとモーツァルトで国際的に認められるソプラノ。ヴェネツィア音楽院、バーゼル・スコラ・カントルムで学ぶ。2012年トーティ・ダル・モンテ国際声楽コンクール優勝、13年ボローニャ国際声楽コンクールファリネッリ賞、インスブルック・チェスティ国際声楽コンクール入賞。トレヴィーゾなどの『秘密の結婚』でデビュー後、フェニーチェ歌劇場『勝利のユディタ』、スカラ座『ルーチョ・シッラ』など主要劇場へデビュー。イタリア17～18世紀音楽を専門とし、ストラスブール・ラン歌劇場で『ポッペアの戴冠式』ポッペア、オペラ・コミック座『恋するヘラクレス』ヴェネレ、コンセルトヘボウ『洗礼者聖ヨハネ』サロメ、エクサンプロヴァンス音楽祭、オペラ・コミック、ヴェルサイユ劇場、フェニーチェ歌劇場『エレナ』『エリトリア』タイトルロールに出演。最近では、バイエルン州立歌劇場『ディドとエネアス』、テアトロ・レアル『オルランド』、ジュネーヴ大劇場『イドメネオ』などに出演している。24/25シーズンはフランクフルト歌劇場『ヘラクレス』イオレに出演し、トリノ王立歌劇場『フィガロの結婚』スザンナ、シャトレ座『オルランド』ドリンダ、モネ劇場がモンテヴェルディのオペラを再構成する『イ・グロッテスキ』フォルトゥーナなどが続く。新国立劇場初登場。

オルフェオ:サラ・ミンガルド(アルト)
Orfeo : Sara MINGARDO

今日数少ない真のアルト歌手のひとり。ヴェネツィアのマルチェッロ音楽院でフランコ・ギッティに師事し、シエナのアカデミア・キジアーナを奨学金を得て修了。国内外の声楽コンクールで優勝し、『秘密の結婚』『チェネレントラ』に出演しデビュー。リナルド・アレッサンドリーニ、アイヴァー・ボルトン、リッカルド・シャイー、チョン・ミョンフン、ポール・ダニエル、コリン・デイヴィス、ジョン・エリオット・ガーディナーらの指揮者やベルリン・フィル、ロンドン交響楽団、ボストン交響楽団、フランス国立管弦楽団、コンチェルト・イタリアーノ、モンテヴェルディ合唱団・管弦楽団、レ・タラン・リリクなどと共演。クラウディオ・アバドとの共演は特に多い。ペルゴレージからレスピーギ、バッハ、ベートーヴェン、ブラームス、ドヴォルザーク、マーラーなど、オペラではグルック、モンテヴェルディ、ヘンデル、ヴィヴァルディ、ロッシーニ、ヴェルディ、モーツァルト、ドニゼッティ、ベルリオーズなどをレパートリーとする。グラミー賞を二度受賞したほか、2009年にはイタリア音楽批評家協会よりアッビアーティ賞を受賞。新国立劇場初登場。

アモーレ:杉山由紀(メゾソプラノ)
Amore : SUGIYAMA Yuki

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所修了時に最優秀賞・川崎静子賞・所長賞受賞。ウィーン国際音楽ゼミナール受講、選抜者によるコンクールにて第3位、ディプロマ取得。全日本学生音楽コンクール第1位・横浜市民賞・ANA副賞、日光国際音楽祭声楽コンクール大賞・審査員長賞などを受賞。東京二期会『ジューリオ・チェーザレ』タイトルロール、『アルチーナ』ルッジェーロ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『ルル』劇場の衣裳係／ギムナジウムの学生、びわ湖ホール『神々の黄昏』ヴェルグンデ、日生劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、東京・春・音楽祭『ローエングリン』小姓、東京交響楽団『サロメ』ヘロディアスの小姓、信長貴富作曲『山と海猫』花月などに出演。新国立劇場では『子どもと魔法』羊飼いの少年／牝猫／りす、『椿姫』フローラに出演。25/26シーズンは『オルフェオとエウリディーチェ』アモーレ、『エレクトラ』クリテムネストラの裳裾持ちの女に出演予定。二期会会員。

2026 年 1/22～1/29
＜レパートリー＞
Repertory

こうもり

Die Fledermaus

●会員先行販売期間：2025年10/25（土）～11/3（月・祝）
●一般発売日：2025年11/8（土）

オペラパレス｜ 5回公演 ｜ 全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1874年4月5日／アン・デア・ウィーン劇場
作曲：ヨハン・シュトラウスⅡ世
原作：アンリ・メイヤック、リュドヴィク・アレヴィ「大晦日の祝宴」ほか
台本：カール・ハフナー、リヒャルト・ジュネー

プロダクションについて

ワルツ王ヨハン・シュトラウスⅡ世の代表作で、大人にも子どもにも、オペラファンにもオペラ初心者にも世界中で大人気のオペレッタ。心躍る有名な序曲からシュトラウスお得意の軽やかな音楽が続き、美しいワルツやポルカにのせてユーモアいっぱいの喜劇が繰り広げられます。新国立劇場の『こうもり』はウィーンの名テノール、ハインツ・ツェドニクの演出。小粋でエレガント、洒脱な仕掛けがたくさん用意されウィーンの香気あふれる舞台は、クリムトの絵から飛び出したようなユーゲントシュティール風の華やかな美術・衣裳も大きな見どころ。目に耳にウィーン独特の美と洒落た風刺が続き、『こうもり』の魅力を余すところなく伝えます。

アイゼンシュタイン役にはベルリン・ドイツ・オペラなどで活躍中の注目のテノール、トーマス・ブロンデル、ロザリンデにはドラマティックな表現を得意とし、新国立劇場では『タンホイザー』エリーザベトで魅了したサビーナ・ツヴィラク、ファルケにはザルツブルク出身のラファエル・フィンガーロス、そしてオルロフスキー公爵にはウィーンでカウンターテナーとして羽ばたいた藤木大地が出演。ダルムシュタット歌劇場音楽総監督でドイツ語圏を中心に活躍中の若手指揮者ダニエル・コーエンと共に華やかな舞台をお届けします。

2023 年公演より

あらすじ

【第1幕】新興銀行家のアイゼンシュタインは公務執行妨害で刑務所に入らねばならず苛立っているが、収監前の気晴らしにと友人ファルケからオルロフスキー公爵邸の夜会へ誘われる。小間使いアデーレも妹イーダから夜会に誘われ、「重病の叔母を見舞うため休みがほしい」とひと芝居打つ。アイゼンシュタインの妻ロザリンデは夫の不在を寂しがるが、その間に昔の恋人のテノール歌手アルフレードと情事を楽しもうと企む。みな表向き悲しみに暮れているが、本心はウキウキ。夫の外出後ロザリンデがさっそくアルフレードと楽しもうとすると刑務所長フランクが来て、人違いでアルフレードを収監してしまう。

【第2幕】オルロフスキー公爵の夜会。アイゼンシュタインとフランクが鉢合わせし、お互いフランスの貴族だと自己紹介して、しどろもどろのフランス語で意気投合する。アデーレはロシアの女優になりすまして登場。仮面をつけたハンガリーの貴婦人がやってくるが、実はロザリンデ。正体に気づかないアイゼンシュタインは口説こうとするも、口説き道具の懐中時計を彼女に奪われてしまう。シャンパンで乾杯し、宴もたけなわ。朝6時になり、アイゼンシュタインとフランクは大慌てで館をあとにする。

【第3幕】刑務所。夜会の余韻に浸るフランク。アイゼンシュタインが刑務所に行くと、フランクがいてびっくり。お互い正体を明かすが、すでに自分が収監されていると聞き驚くアイゼンシュタイン。そこにロザリンデがやってきた。アイゼンシュタインは妻の不貞を責めるが、彼女は例の懐中時計を差し出す。ここでファルケが、すべては自分が仕組んだ"こうもりの復讐"だったと種明かしし、にぎやかに大団円となる。

ヨハン・シュトラウスⅡ世

こうもり

Johann StraussⅡ / Die Fledermaus

全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ダニエル・コーエン Daniel COHEN
演出 Production	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ハインツ・ツェドニク Heinz ZEDNIK
美術・衣裳 Set and Cosutume Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	オラフ・ツォンベック Olaf ZOMBECK
振付 Choreographer	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マリア・ルイーズ・ヤスカ Maria Luise JASKA
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	立田雄士 TATSUTA Yuji
ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン Gabriel von Eisenstein	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	トーマス・ブロンデル Thomas BLONDELLE
ロザリンデ Rosalinde	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	サビーナ・ツヴィラク Sabina CVILAK
フランク Frank	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	レヴェント・バキルジ Levent BAKIRCI
オルロフスキー公爵 Prinz Orlofsky	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	藤木大地 FUJIKI Daichi
アルフレード Alfred	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	伊藤達人 ITO Tatsundo
ファルケ博士 Dr. Falke	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ラファエル・フィンガーロス Rafael FINGERLOS
アデーレ Adele	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マリア・シャブーニア Maria CHABOUNIA
ブリント博士 Dr. Blind	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	青地英幸 AOCHI Hideyuki
フロッシュ Frosch	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ホルスト・ラムネク Horst LAMNEK
イーダ Ida	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	今野沙知恵 KONNO Sachie
合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2026年	1月	22日（木）18:00	24日（土）14:00
		25日（日）14:00	27日（火）14:00
		29日（木）14:00	

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

指揮：ダニエル・コーエン
Conductor : Daniel COHEN

2018年よりダルムシュタット州立劇場音楽総監督。ダルムシュタットでの任期は26/27シーズンまで延長された。同劇場での最近の主な公演に、『ローエングリン』『ルル』『ホフマン物語』などがあり、今シーズンは『エレクトラ』『オテロ』を指揮する。15/16シーズンよりベルリン・ドイツ・オペラのカペルマイスターを務め、『コジ・ファン・トゥッテ』『ドン・ジョヴァンニ』『椿姫』、またバッティステッリ『パゾリーニのテオレマ』（世界初演）などを指揮した。ベルリン州立歌劇場へは『春の祭典』でデビューし、『セビリアの理髪師』『ねじの回転』などを指揮している。カナディアン・オペラ・カンパニー、イスラエル・オペラ、マンハイム国民劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ノルウェー国立オペラへも客演。ベルリン州立歌劇場管弦楽団（ベルリン・シュターツカペレ）、ロサンゼルス・フィル、ドレスデン・フィル、ミュンヘン交響楽団、ヘルシンキ・フィル、RTÉ国立交響楽団、フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団、カメラータ・ザルツブルク、バーゼル交響楽団などにも客演している。新国立劇場初登場。

演出：ハインツ・ツェドニク
Production : Heinz ZEDNIK

ウィーン生まれ。1964年グラーツ歌劇場と契約を結び、翌年、ウィーン国立歌劇場に移る。80年には宮廷歌手の称号を授与される。94年ウィーン国立歌劇場の名誉会員となり、97年にはフィデリオ・メダルを授与されている。これまでにバイロイト音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場など、世界の主要な歌劇場に出演。オペラとオペレッタのレパートリーは100役を超える。特に『こうもり』に関しては4役をレパートリーにしており、この演目に関してのエキスパートとして知られている。新国立劇場には、2004年『スペインの時』トルケマダ、『サロメ』ヘロデ、『ファルスタッフ』医師カイウスに出演。06年本プロダクションで演出家として世界デビューを果たし、09年、11年、15年、18年、20年、23年に再演、今回が7度目の再演となる。

ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン：トーマス・ブロンデル（テノール）
Gabriel von Eisenstein : Thomas BLONDELLE

ベルギー出身。在学中にモネ劇場にデビューし『白いバラ』主役ハンス・ショルに出演。ブラウンシュヴァイク州立劇場専属歌手を務めた後、2009～23年はベルリン・ドイツ・オペラ専属歌手として『魔笛』タミーノ、『ラインの黄金』ローゲ、『サロメ』ヘロデ、『ナブッコ』イズマエーレ、『マクベス』マクダフ、『こうもり』アイゼンシュタイン、『さまよえるオランダ人』エリック、『ペレアスとメリザンド』ペレアスなどに出演。ほかに、バイエルン州立歌劇場『ラインの黄金』フロー、『リア』ケント伯爵、サイトウ・キネン・フェスティバル『火刑台上のジャンヌ・ダルク』テノール・ソロ、オランダ国立オペラ『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィット、『サロメ』ヘロデ、エクサン・プロヴァンス音楽祭『ヴォツェック』鼓手長、シュトゥットガルト州立歌劇場、ブレゲンツ音楽祭『魔弾の射手』マックス、『さまよえるオランダ人』エリック、フランクフルト歌劇場『サロメ』ヘロデなどに出演。24/25シーズンはデンマーク王立歌劇場『オレスト』アポロ＝ディオニュソスのほか、フランダース・オペラ、ラトヴィア国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラで『サロメ』ヘロデに、プラハ、パリ、ドレスデンで『ジークフリート』タイトルロールに出演する。新国立劇場初登場。

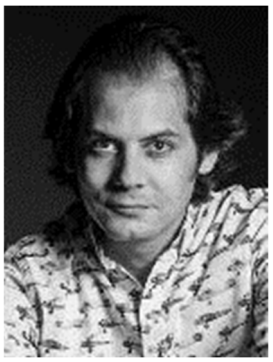
主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ロザリンデ:サビーナ・ツヴィラク(ソプラノ)
Rosalinde : Sabina CVILAK

スロヴェニア・マリボール生まれ。2003年ハンブルク州立歌劇場に『トゥーランドット』リューでデビュー、同役をシンガポール、サヴォンリンナ音楽祭でも歌う。04/05シーズンよりウィーン国立歌劇場専属歌手となった後フリーとなる。トリエステ、ケルン、パームビーチ、ヘルシンキ、香港、ベルリン、ボローニャで『カルメン』ミカエラ、『ラ・ボエーム』ミミ、『オテロ』デズデーモナ、『道化師』ネッダを歌い成功を収める。ヘッセン州立歌劇場（ヴィースバーデン）『カーチャ・カバノヴァー』タイトルロール、『エウゲニ・オネーギン』タチヤーナ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『トゥーランドット』リュー、『カルメル会修道女の対話』ブランシュ、スロヴェニア国立歌劇場で『トゥーランドット』リュー、『ラインの黄金』フライアに出演。最近及び今後の出演に、スロヴェニア国立歌劇場『シモン・ボッカネグラ』『アンドレア・シェニエ』『マノン・レスコー』『トスカ』『蝶々夫人』、フランクフルト歌劇場『ムツェンスク郡のマクベス夫人』、フィンランド国立オペラ『トゥーランドット』、ヘッセン州立歌劇場『カーチャ・カバノヴァー』『イェヌーファ』『蝶々夫人』がある。新国立劇場では23年『タンホイザー』エリーザベトに出演した。

フランク:レヴェント・バキルジ(バリトン)
Frank : Levent BAKIRCI

アンカラ出身。2008年～11年ブレーメン歌劇場専属歌手。15～18年はニュルンベルク州立歌劇場専属歌手として、『ドン・ジョヴァンニ』、『魔笛』パパゲーノ、『アルジェのイタリア女』タッデオ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『カルメン』エスカミーリョ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『ボリス・ゴドゥノフ』シチェルカーロフなどを演じる。最近ではチリ・サンティアゴ市立劇場『ドン・ジョヴァンニ』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『一日だけの王様』、フィレンツェ歌劇場『囚われ人』、『リア』グロスター公、メキシコ国立歌劇場『ラインの黄金』アルベリヒ、ニュルンベルク州立歌劇場『マノン』レスコー、ブルノ・ヤナーチェク音楽祭『死者の家から』、トゥールーズ・キャピトル劇場『囚われ人』、ポーランド国立歌劇場『白鯨』、イスラエル・オペラ『ルチア』エンリーコ、イスタンブール歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレ、アンコーナ歌劇場『魔笛』パパゲーノ、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『こうもり』フランク、ハレ歌劇場『リゴレット』タイトルロールに出演。24/25シーズンはフェニーチェ歌劇場『人生は夢』、フィレンツェ五月音楽祭『若き貴族』の出演がある。新国立劇場初登場。



オルロフスキー公爵:藤木大地(カウンターテナー)
Prinz Orlofsky : FUJIKI Daichi

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修でボローニャに留学後、ウィーン国立音楽大学大学院文化経営学修了。2012年、国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。13年、ボローニャ歌劇場のグルック『クレーリアの勝利』マンニオでヨーロッパ・デビュー。同劇場にバッティステッリ『イタリア式離婚狂想曲』カルメロで出演。17年、ウィーン国立歌劇場にライマン『メデア』ヘロルドでデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。23年は全国共同制作オペラ『こうもり』オルロフスキー公爵、24年は東京芸術劇場コンサートオペラ『美しきエレーヌ』オレステスで出演。新国立劇場へは03年『フィガロの結婚』ドン・クルツィオへ出演、カウンターテナーとして『夏の夜の夢』オーベロン、『スーパーエンジェル』アキラ、『ジュリオ・チェーザレ』トロメーオに出演している。洗足学園音楽大学客員教授。横浜みなとみらいホール 初代プロデューサー(2021-2023)。大和高田さざんかホール レジデント・アーティスト。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

アルフレード：伊藤達人（テノール）
Alfred : ITO Tatsundo

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第14期修了。文化庁在外研修員としてベルリンにて研鑽を積む。二期会『パルジファル』タイトルロール、『影のない女』皇帝に出演。日生劇場では『ヘンゼルとグレーテル』魔女、『ランメルモールのルチア』アルトゥーロで出演。オペラのほか、15年新国立劇場演劇制作ミュージカル『パッション』にトラッソ中尉で出演。新国立劇場オペラ公演では『夜鳴きうぐいす』漁師、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィット、『こうもり』アルフレード、『さまよえるオランダ人』舵手に出演している。25/26シーズンは『ヴォツェック』アンドレス、『こうもり』アルフレードに出演予定。二期会会員。

ファルケ博士：ラファエル・フィンガーロス（バリトン）
Dr. Falke : Rafael FINGERLOS

ザルツブルク出身。2015年にザルツブルク音楽祭のヤング・シンガーズ・プロジェクトに参加し、16年にトーマス・アデス『皆殺しの天使』世界初演のパブロ役で同音楽祭に再登場。同年ザクセン州立歌劇場へ『魔笛』パパゲーノでデビュー。16/17シーズンから19/20シーズンまでウィーン国立歌劇場専属歌手となり、同歌劇場来日公演の『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキンに出演後、同劇場で『セビリアの理髪師』フィガロでデビューし、『こうもり』ファルケ、『夏の夜の夢』ディミートリアス、『魔笛』パパゲーノ、『愛の妙薬』ベルコーレなど多くの役を歌う。『カルメン』モラレス、テアトロ・レアル『軍人たち』、ザクセン州立歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキンに出演。21/22シーズンにはミラノ・スカラ座へハルレキンでデビューし、23年にブエノスアイレス・コロン歌劇場『メリー・ウィドウ』ダニロ、24年にはガーシントン・オペラ『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ役に出演。リサイタルを活動の中心とし、オーストリア及び国際的な音楽祭やコンサートホールに多数出演すると共に、オラトリオやミサ曲でも各地に招かれている。新国立劇場初登場。

アデーレ：マリア・シャブーニア（ソプラノ）
Adele : Maria CHABOUNIA

ミンスク出身。ベラルーシ国立音楽アカデミー卒業。2014年ヴァイカースハイム・DEBUT声楽コンクール第2位、15年ミンスク・オペラ・コンクール第1位、18年マルセイユ・オペラ・コンクール最優秀フランス・アリア解釈賞および聴衆賞などを受賞。ロッシーニ・アカデミーに参加し、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルで『ランスの旅』コルテーゼ夫人に出演。マルメ歌劇場『リゴレット』ジルダ、ベラルーシ・ボリショイ劇場『皇帝の花嫁』のマルファ、ハンブルク州立歌劇場『オルフォイス』（テレマン作曲）オイリディーチェ、『チェネレントラ』クロリンダ、『魔笛』パパゲーナ、『フィガロの結婚』バルバリーナなどに出演。最近の出演作には、フランダース歌劇場『こうもり』アデーレ、ゲルトナープラッツ劇場『夢遊病の女』リーザ、マルメ歌劇場『フィガロの結婚』スザンナ、トッレ・デル・ラーゴ・プッチーニ音楽祭およびフランダース歌劇場『ラ・ボエーム』のムゼッタなどがある。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ブリント博士：青地英幸（テノール）
Dr. Blind : AOCHI Hideyuki

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。これまでに『魔笛』タミーノ、ロッシーニ『オテロ』ロドリーゴ、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『カルメン』ドン・ホセなどを演じている。宗教曲ソリストとしても活躍。新国立劇場では『おさん』『ホフマン物語』『ばらの騎士』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『ヴォツェック』『サロメ』『ファルスタッフ』『ジャンニ・スキッキ』『夏の夜の夢』『フィガロの結婚』『夜鳴きうぐいす』『ボリス・ゴドゥノフ』『子どもと魔法』『こうもり』『トリスタンとイゾルデ』『ジークフリート』ハイライトコンサートなど多数出演。25/26シーズンは『ヴォツェック』白痴、『こうもり』ブリント博士に出演予定。成城大学合唱部ヴォイストレーナー。公津の杜男声合唱団指導者。コールペガサス・ヴォイストレーナー。足利オペラ・リリカ専属アーティスト並びに研究科講師。武蔵野音楽大学講師。

フロッシュ：ホルスト・ラムネク（バス・バリトン）
Frosch: Horst LAMNEK

ウィーン出身。ウィーン国立音楽大学声楽科を優秀な成績で修了。チューリヒ歌劇場オペラスタジオを経て、ウルム歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー専属歌手となり、現在はフリー。ボン、エッセン、レーゲンスブルク、ヴィースバーデン、リンツなどの歌劇場に客演を重ねる。最近では、レンヌ、バーリ、トゥーロン、ナントで『こうもり』フランク、レッジョ・エミリアで『マハゴニー市の興亡』ビル、ソロトゥロンで『メリー・ウィドウ』ツェータ男爵、クロスターノイブルク音楽祭『ホフマン物語』ルーテル／クレスペル、ミラノ・スカラ座、トリノ王立劇場、バーリ・ペトルッツェッリ劇場『サロメ』5人のユダヤ人などに出演している。新国立劇場2014/2015シーズン『こうもり』ではフランク、2023/2024シーズン『こうもり』ではフロッシュに出演した。

イーダ：今野沙知恵（ソプラノ）
Ida : KONNO Sachie

桐朋学園大学音楽学部声楽専攻を首席で卒業、同大学研究科を修了。交換留学生としてサンタ・チェチーリア音楽院に留学。新国立劇場オペラ研修所第14期修了。第85回日本音楽コンクール声楽部門第3位受賞。平成26年度文化庁新進芸術家海外研修生。平成30年度第29回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。ドイツとイタリアに留学。東京・春・音楽祭『ローエングリン』小姓、日生劇場『魔笛』パパゲーナなどに出演。マーラー『交響曲第4番』、ヘンデル『メサイア』、バッハ『マタイ受難曲』、ラター『レクイエム』などコンサートのソリストとしても活躍。新国立劇場では『修道女アンジェリカ』ドルチーナ、オペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演『魔笛』侍女Ⅰに出演。25/26シーズンは『こうもり』イーダ、『愛の妙薬』ジャンネッタに出演予定。

2026 年 2/18～3/1
＜レパートリー＞
Repertory

リゴレット

●会員先行販売期間：2025年11/23（日・祝）～12/2（火）
●一般発売日：2025年12/7（日）

Rigoletto

オペラパレス｜ 5回公演 ｜ 全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1851年3月11日／フェニーチェ歌劇場（ヴェネツィア）
作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ
原作：ヴィクトル・ユーゴー
台本：フランチェスコ・マリア・ピアーヴェ

プロダクションについて

ヴェルディ中期の傑作にして人気作『リゴレット』。富と権力にものを言わせ女から女へと遊び歩くマントヴァ公爵、公爵と取り巻きが遊興を尽くす裏社会で媚びを売る道化師リゴレット、その娘で純粋一途なジルダの悲劇が、劇的効果に満ちた音楽と緊張感の中で繰り広げられます。オペラファンでなくてもつい口をついて出てしまう有名曲「女心の歌」をはじめ、「慕わしき人の名は」「悪魔め、鬼め！」など数々の名アリアも満載。重唱の美しさも特筆されます。エミリオ・サージ演出の舞台は登場人物の孤独にクローズアップするもので、美しく象徴的な舞台美術も印象的です。

注目のリゴレット役にはヴェルディ・バリトンとして名を馳せるウラディーミル・ストヤノフ、マントヴァ公爵にはテノールのスター、ローレンス・ブラウンリー、ジルダには同役を得意とする中村恵理が出演し、イタリア・オペラの名手ダニエレ・カッレガーリの指揮のもと、声の饗宴を繰り広げます。

2023 年公演より

あらすじ

【第1幕】マントヴァ公爵の宮廷。ある夜会にモンテローネ伯爵が乱入し、娘を陵辱したマントヴァ公爵を大声で非難する。道化師リゴレットは嘲笑するが、激昂したモンテローネ伯爵からマントヴァ公爵と一緒に呪いの言葉を投げられ、狼狽する。不具で醜いリゴレットの生き甲斐は娘のジルダだった。彼は清純な愛娘が汚されるのを恐れ、教会に行く以外は外出も許さなかった。だが、学生に身をやつしたマントヴァ公爵が教会でジルダを見初め、隠れ家に忍び込んで娘の心を奪ってしまう。一方、公爵の威を借るリゴレットに我慢のならない廷臣達は、ジルダを彼の情婦と思い込み、鬱憤晴らしに彼女を誘拐する。

【第2幕】ジルダが何者かにさらわれて公爵が気落ちしていると、廷臣たちがジルダを誘拐してくるので公爵は喜ぶ。リゴレットは平静を装って宮廷に参内し、落ち着きなく娘の痕跡を探す姿を、廷臣たちがあざ笑う。やがて娘が公爵の寝室にいることを知ったリゴレットは、怒り、泣く。そして、動転したジルダから公爵の毒牙にかかったことを聞き、公爵を呪い、復讐を誓う。

【第3幕】殺し屋スパラフチーレの居酒屋。リゴレットはジルダと外に佇み、公爵が士官に変装して居酒屋で女と戯れる様子を見ている。居酒屋の女は殺し屋の妹マッダレーナだった。ジルダは公爵の本性を知るが恋心は消えない。娘を先に行かせたリゴレットはスパラフチーレに公爵殺しを依頼する。殺し屋が準備を始めると公爵に惚れた妹マッダレーナが反対し、口論の末「身代わりを殺して報酬だけせしめよう」と決着する。それを立ち聞きしていたジルダは身代わりになると決意、居酒屋に入り、スパラフチーレの刃を受ける。真夜中が過ぎ、殺し屋から死体の袋を受け取ったリゴレットは、そこに瀕死の娘ジルダの姿を目にする。娘は身勝手を父に詫びながら息絶え、リゴレットは呪いの恐ろしさに打ちのめされる。

ジュゼッペ・ヴェルディ

リゴレット

Giuseppe Verdi / Rigoletto

全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ダニエレ・カッレガーリ Daniele CALLEGARI
演出 Production	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	エミリオ・サージ Emilio SAGI
美術 Set Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	リカルド・サンチェス・クエルダ Ricardo SÁNCHEZ CUERDA
衣裳 Costume Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ミゲル・クレスピ Miguel CRESPI
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	エドゥアルド・ブラーボ Eduardo BRAVO
振付 Choreographer	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ヌリア・カステホン Nuria CASTEJÓN
リゴレット Rigoletto	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ウラディーミル・ストヤノフ Vladimir STOYANOV
ジルダ Gilda	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中村恵理 NAKAMURA Eri
マントヴァ公爵 Il duca di Mantova	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ローレンス・ブラウンリー Lawrence BROWNLEE
スパラフチーレ Sparafucile	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	斉木健詞 SAIKI Kenji
マッダレーナ Maddalena	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	清水華澄 SHIMIZU Kasumi
モンテローネ伯爵 Il conte di Monterone	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	友清 崇 TOMOKIYO Takashi
ジョヴァンナ Giovanna	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	谷口睦美 TANIGUCHI Mutsumi
マルッロ Marullo	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	成田博之 NARITA Hiroyuki
ボルサ Borsa	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	糸賀修平 ITOGA Shuhei
チェプラーノ伯爵 Il conte di Ceprano	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi
チェプラーノ伯爵夫人 La Contessa di Ceprano	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	十合翔子 SOGO Shoko
牢番 Un usciere	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	三戸大久 SANNOHE Hirohisa
		ほか
合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

Production of ABAO Bilbao Opera

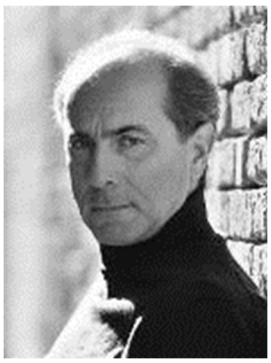
2026年	2月	18日（水）18：00	21日（土）14：00
		23日（月・祝）14：00	26日（木）14：00
	3月	1日（日）14：00	

【チケット料金】　S：29,700円　・　A：24,200円　・　B：17,600円　・　C：11,000円　・　D：7,700円

【　会　場　】　オペラパレス

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

指揮：ダニエレ・カッレガーリ
Conductor : Daniele CALLEGARI



ミラノ生まれ。ミラノ・スカラ座管弦楽団メンバーとして数々の著名指揮者のもとで演奏した後、ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院を指揮と作曲で卒業。1998年～2001年ウェックスフォード・オペラ・フェスティバル、02～08年ロイヤル・フランダース・フィル首席指揮者、21～23年ニース・オペラ管弦楽団首席指揮者を歴任。イタリア・オペラから現代作品の世界初演まで手がけ、メトロポリタン歌劇場『ナブッコ』『椿姫』『イル・トロヴァトーレ』『ラ・ジョコンダ』、スカラ座『トゥーランドット』『イル・トロヴァトーレ』『リゴレット』などを筆頭に、パリ・オペラ座、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、モンテカルロ歌劇場、サンフランシスコ・オペラなど世界の主要歌劇場やコンサートホールで活躍。最近では、スウェーデン王立歌劇場、トッレ・デル・ラーゴ・プッチーニ音楽祭『トスカ』、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『ルイザ・ミラー』、ハンブルク州立歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』『トゥーランドット』、メトロポリタン歌劇場『ナブッコ』などを指揮している。24/25シーズンの出演にメトロポリタン歌劇場『イル・トロヴァトーレ』、ノルウェー国立オペラ『椿姫』『フェニーチェ歌劇場『リゴレット』など。新国立劇場へは01年『ドン・カルロ』、08年『リゴレット』、21年『トスカ』で登場。

演出：エミリオ・サージ
Production : Emilio SAGI

哲学、文学、音楽学博士、オビエド名誉市民。1980年オビエドで『椿姫』を演出してデビュー。90～99年マドリード・サルスエラ劇場監督、2001～05年マドリード・テアトロ・レアル芸術監督、08年～15年ビルバオ・アリアガ劇場芸術監督。バロック期のサルスエラから現代オペラまで手がけ、ボローニャ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オデオン座、ローマ歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、フィラデルフィア・オペラ、ヒューストン・グランド・オペラ、ウィーン・フォルクスオーパー、アン・デア・ウィーン劇場、イスラエル・オペラ、ジュネーヴ大劇場、ストラスブール・ラン歌劇場、ボルドー歌劇場、マリインスキー劇場、香港オペラフェスティバル、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、ザルツブルク音楽祭、オビエド・カンポアモール劇場、ビルバオ・アリアガ劇場、ソフィア王妃芸術宮殿、バルセロナ・リセウ大劇場、テアトロ・レアルなどの著名劇場や音楽祭で活躍。カンポアモール・リリカル・アワード、「Ópera Actual」誌最優秀スペイン人演出家賞、アルゼンチン批評家賞などを受賞。20年スペイン政府芸術功労章受章。スペインのオペラ劇場連盟「Opera XXI」栄誉賞を受賞。新国立劇場では本プロダクションのほか『運命の力』を演出している。

リゴレット：ウラディーミル・ストヤノフ（バリトン）
Rigoletto : Vladimir STOYANOV

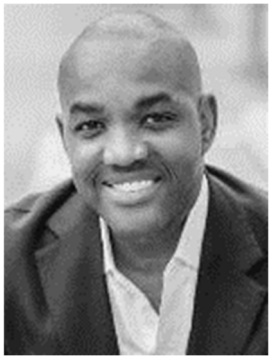
今日のオペラ界を代表するバリトンの一人。ブルガリア・ペルニク出身。1996年にソフィアでデビューし、98年にナポリ・サン・カルロ歌劇場『マクベス』でイタリアデビュー。ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリヒ歌劇場などに『運命の力』『椿姫』『マクベス』『ドン・カルロ』『ルチア』などで出演。08年メトロポリタン歌劇場へデビュー。近年では、英国ロイヤルオペラ『椿姫』、ブレゲンツ音楽祭『リゴレット』、ローマ歌劇場、バイエルン州立歌劇場『椿姫』、ベルリン州立歌劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、フェニーチェ歌劇場などで成功を収める。最近のハイライトに、英国ロイヤルオペラ『蝶々夫人』、ローマ歌劇場『オテロ』、フィンランド国立オペラ『シモン・ボッカネグラ』、トリノ王立歌劇場、チューリヒ歌劇場『つばめ』、バーリ・ペトルッツェッリ劇場『オテロ』、ヴェローナ野外音楽祭『椿姫』、デンマーク王立歌劇場『仮面舞踏会』など。24/25シーズンは、パルマ・ヴェルディ音楽祭『レニャーノの戦い』、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場『スティッフェリオ』、バーリ・ペトゥルッツェッリ劇場『ドン・カルロ』、トリノ王立歌劇場『スペードの女王』、フェニーチェ歌劇場『アッティラ』などに出演。新国立劇場では17年『オテロ』イアーゴに出演した。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ジルダ:中村恵理(ソプラノ)
Gilda : NAKAMURA Eri

大阪音楽大学、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。2008年英国ロイヤルオペラにデビュー。10～16年はバイエルン州立歌劇場専属歌手となり、『フィガロの結婚』『魔笛』『ホフマン物語』『ヘンゼルとグレーテル』『ボリス・ゴドゥノフ』などに主要キャストとして出演。また、英国ロイヤルオペラ『フィガロの結婚』スザンナ、『ウェルテル』ソフィー、『トゥーランドット』リュー、『蝶々夫人』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場、台中国家歌劇院『神々の黄昏』ヴォークリンデ、スウェーデン王立歌劇場『蝶々夫人』、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『マリア・カラス7つの死』、オペラ・ラーラ『シモン・ボッカネグラ』アメーリア、カナディアン・オペラ・カンパニー『蝶々夫人』、ワシントン・ナショナル・オペラ、ベルリン・ドイツ・オペラなど数多く客演。12年度アリオン賞、15年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、17年JXTG音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。大阪音楽大学客員教授、東京音楽大学非常勤講師。新国立劇場では『フィガロの結婚』バルバリーナ、スザンナ、『イドメネオ』イーリア、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『トゥーランドット』リューなど出演多数。21年には『蝶々夫人』タイトルロール、22年、24年『椿姫』ヴィオレッタに出演し絶賛された。

マントヴァ公爵:ローレンス・ブラウンリー(テノール)
Il duca di Mantova : Lawrence BROWNLEE



世界最高峰の舞台で活躍し、行動主義や多様性の代弁者としてもオペラ界をリードするテノール。2001年メトロポリタン・オペラ・ナショナル・カウンシル・オーディショングランプリ受賞。17年インターナショナル・オペラ・アワード最優秀男声歌手など受賞多数。近年の成功作に、ミラノ・スカラ座『ドン・パスクワーレ』エルネスト、シカゴ・リリック・オペラ『連隊の娘』トニオ、メトロポリタン歌劇場『魔笛』タミーノ（ロールデビュー）など。24/25シーズンは、ボストン・リリック・オペラ『ポントの王ミトリダーテ』が絶賛されたほか、パリ・オペラ座『連隊の娘』トニオ、『清教徒』アルトゥーロ、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場に出演予定。コロナウィルスの影響下で、クラシック音楽のデジタル・プログラムや人種的公正をめぐる重要な発信者となる。カンパニーと協力し各地の市民団体と共に、オペラの聴衆拡大のためのプログラムを創出。20年5月にはアフリカ系アメリカ人歌手としての経験を探求する週1回のfacebookライブ・シリーズ「The Sitdown with LB」を開始し、21年にはこのシリーズに、オペラの舞台裏に焦点を当てる「インサイド・ザ・インダストリー」を設けた。新国立劇場では06年『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、21年『ルチア』エドガルドに出演。本年5・6月『セビリアの理髪師』にも出演予定。

スパラフチーレ:斉木健詞(バス)
Sparafucile : SAIKI Kenji

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてボローニャへ留学。第78回日本音楽コンクール声楽部門第3位。二期会『ポッペアの戴冠』セネカ、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、騎士長、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ナクソス島のアリアドネ』トゥルファルディン、『ナブッコ』ザッカーリア、兵庫県立芸術文化センター『トスカ』スカルピア、びわ湖ホール『海賊』ジョヴァンニ、『ばらの騎士』オックス男爵、東京・春・音楽祭子どものためのワーグナー『さまよえるオランダ人』ダーラント、『パルジファル』グルネマンツ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ポークナーなどに出演。新国立劇場では『カルメン』スニガ、『サロメ』2人の兵士2、『アイーダ』エジプト国王、『軍人たち』フォン・シュパンハイム伯爵、『タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦』ラインマルに出演。25/26シーズンは『リゴレット』スパラフチーレ、『エレクトラ』オレストの養育者、高校生のためのオペラ鑑賞教室2025ロームシアター京都公演『魔笛』ザラストロに出演予定。二期会会員。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

マッダレーナ：清水華澄（メゾソプラノ）
Maddalena : SHIMIZU Kasumi

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員、ロームミュージックファンデーション在外研究員としてイタリアに留学。2007年第6回カルロ・ゴメス国際コンクール第2位。二期会『仮面舞踏会』ウルリカ、『アイーダ』アムネリス、『フィガロの結婚』マルチェッリーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントゥッツァ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『イル・トロヴァトーレ』アズチェーナ、『ローエングリン』オルトルート、『サロメ』ヘロディアス、札幌文化芸術劇場ほかのグランドオペラ共同制作『アイーダ』アムネリス、兵庫県立芸術文化センター『蝶々夫人』スズキなどで好評を博す。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『神々の黄昏』第二のノルン、『チェネレントラ』ティーズベ、『オテロ』エミーリア、『ラインの黄金』フロスヒルデ、『アンドレア・シェニエ』ベルシ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』タイトルロール、『アイーダ』（コンサート形式）アムネリス、『ボリス・ゴドゥノフ』女主人、『リゴレット』マッダレーナなどに出演。25/26シーズンは『リゴレット』マッダレーナ、『エレクトラ』第3の下女に出演予定。二期会会員。

モンテローネ伯爵：友清　崇（バリトン）
Il conte di Monterone : TOMOKIYO Takashi

桐朋学園大学声楽科卒業、同研究科修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。ウィーン国立音楽大学研究課程声楽科修了。第7回藤沢オペラコンクール第2位受賞、第77回日本音楽コンクール入選。これまでに二期会『カプリッチョ』オリヴィエ、『魔笛』パパゲーノ、『サロメ』ヨハナーン、『パルジファル』クリングゾル、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『ローエングリン』王の伝令、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『影のない女』伝令使、シャルル・デュトワ指揮『サロメ』ヨハナーン、東京・春・音楽祭子どものためのワーグナー『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『パルジファル』クリングゾル、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ザックスなどに出演している。新国立劇場では鑑賞教室『トスカ』アンジェロッティ、『ジークフリート』ハイライトコンサート、『リゴレット』マルッロに出演。二期会会員。

2026 年 3/5～3/12
＜レパートリー＞
Repertory

ドン・ジョヴァンニ

●会員先行販売期間：2025年12/20（土）～2026年1/6（火）
●一般発売日：2026年1/10（土）

Don Giovanni
オペラパレス｜ 5回公演 ｜ 全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1787年10月29日／プラハ国立劇場
作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
台本：ロレンツォ・ダ・ポンテ

プロダクションについて

稀代のプレイボーイ、ドン・ジョヴァンニの華麗なる恋の遍歴と衝撃的な最期を描いた、モーツァルトの人気作。娘を誘惑してその父親を殺し、石像として現れた父親の幽霊に地獄へ連れていかれる伝説の色事師“ドン・ファン伝説”をもとにした、劇的で疾走感みなぎるオペラです。デモーニッシュな魅力あふれる主人公と憎めない性格の従者レポレッロ、対する女性達の数々の美しいアリアで綴られ、石像との息詰まる対決とそれに続くラストの地獄落ちは圧巻のクライマックスです。アサガロフ演出は主人公を18世紀に実在した色男カサノヴァになぞらえ、舞台をヴェネツィアに移しています。

指揮は飯森範親、タイトルロールにモーツァルトを得意とするヴィート・プリアンテ、ドンナ・アンナにはスター・ソプラノのイリーナ・ルングが出演。レポレッロのダニエル・ジュリアニーニ、ドンナ・エルヴィーラのサラ・コルトレツィス、ドン・オッターヴィオのデイヴ・モナコとイタリア注目の若手が揃います。

2022 年公演より

あらすじ

【第1幕】従者レポレッロを引き連れ、夜な夜な女性の家へ忍び込む、稀代の色男ドン・ジョヴァンニ。今宵はドンナ・アンナの部屋へ行くが、彼女の父親である騎士長に見つかって決闘となり騎士長を刺し殺してしまう。アンナは婚約者ドン・オッターヴィオに、犯人を探して復讐してほしいと求める。ジョヴァンニは通りすがりの女性に声をかけるが、それは昔の女ドンナ・エルヴィーラ。彼女はジョヴァンニに捨てられてもまだ彼を愛し、彼を探していたのだ。ジョヴァンニは大慌てで逃げる。後を託されたレポレッロは彼女に、ジョヴァンニはヨーロッパじゅうの2千人もの女性と関係しているのだから諦めるよう諭す。村で農夫マゼットと村娘ツェルリーナの結婚式が始まろうというとき、ジョヴァンニが現れて花嫁を誘惑するが、すんでのところでエルヴィーラが止める。アンナは犯人探しの協力をジョヴァンニに求めるが、話すうち彼こそ犯人だと気づく。村人たちを招いてパーティを開くジョヴァンニは上機嫌。そんな彼をアンナたちは追及する。

【第2幕】ジョヴァンニはレポレッロと服を交換して変装し、エルヴィーラの小間使いを誘惑。マゼットと農民たちはジョヴァンニを殺そうとやってくるが、ジョヴァンニ扮するレポレッロに計画を話してしまい、逆に痛めつけられる。彼の服を着たレポレッロは命からがら逃げてきて、ジョヴァンニと落ち合う。すると、騎士長の墓の石像が、戒めの言葉を喋り出す。驚く2人だが、ジョヴァンニは臆せず石像を晩餐に招待する。夜、彼の家に本当に石像がやってきた。石像はジョヴァンニに悔い改めるよう迫るが、彼は拒否。石像はジョヴァンニの手を取って炎の中へ引きずり込み、地獄へと落ちるのだった。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

ドン・ジョヴァンニ

Wolfgang Amadeus Mozart / Don Giovanni

全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	飯森範親 IIMORI Norichika
演出 Production	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	グリシャ・アサガロフ Grischa ASAGAROFF
美術・衣裳 Set＆Costume Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ルイジ・ペーレゴ Luigi PEREGO
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マーティン・ゲップハルト Martin GEBHARDT
ドン・ジョヴァンニ Don Giovanni	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ヴィート・プリアンテ Vito PRIANTE
騎士長 Il Commendatore	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	田中大揮 TANAKA Taiki
レポレッロ Leporello	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ダニエル・ジュリアニーニ Daniel GIULIANINI
ドンナ・アンナ Donna Anna	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	イリーナ・ルング Irina LUNGU
ドン・オッターヴィオ Don Ottavio	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	デイヴ・モナコ Dave MONACO
ドンナ・エルヴィーラ Donna Elvira	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	サラ・コルトレツィス Sara CORTOLEZZIS
マゼット Masetto	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	近藤 圭 KONDO Kei
ツェルリーナ Zerlina	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	盛田麻央 MORITA Mao
合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2026年	3月	5日（木）18:00	7日（土）14:00
		8日（日）14:00	10日（火）14:00
		12日（木）13:00	

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮：飯森範親
Conductor : IIMORI Norichika

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響などに客演。2001 年、ドイツ・ヴュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督（GMD）に着任し、日本ツアーも成功に導いた。国内では 1994 年以来、東京交響楽団と密接な関係を続け、正指揮者、特別客演指揮者を歴任。2006 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。14 年より日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任、世界でも例の少ないハイドンの交響曲全曲演奏＆録音という一大プロジェクトを手掛ける（25 年 3 月退任）。パシフィックフィルハーモニア東京音楽監督、群馬交響楽団常任指揮者、山形交響楽団桂冠指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。新国立劇場では『鹿鳴館』、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』、『夏の夜の夢』、『コジ・ファン・トゥッテ』を指揮している。

演出：グリシャ・アサガロフ
Production : Grischa ASAGAROFF

ドイツのジーゲン生まれ。ミュンヘン大学で音楽と演劇を学ぶ。1966年よりバイエルン州立歌劇場で舞台監督、演出助手の仕事を始め、ドルトムント歌劇場、ライン・ドイツ・オペラなどで助手を務め、ギュンター・レンネルト、ジャン=ピエール・ポネルなどのもとで研鑽を積みながら国際的な活動をスタート。82年からチューリヒ歌劇場、86年からウィーン国立歌劇場首席演出家を務め、2012年までチューリヒ歌劇場芸術監督。新国立劇場では04年『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』、06年『イドメネオ』、08年『ドン・ジョヴァンニ』の演出を手がけるほか、09年ポネル演出の『チェネレントラ』では、再演演出および演技指導で参加している。

ドン・ジョヴァンニ：ヴィート・プリアンテ（バリトン）
Don Giovanni : Vito PRIANTE

ナポリ出身。ドイツ文学とフランス文学を学んだ後、2002年にフィレンツェでプロデビュー。その後、スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、バレンシア歌劇場、シャンゼリゼ劇場、ロサンゼルス・オペラ、カナディアン・オペラ・カンパニー、ザルツブルク音楽祭、英国ロイヤルオペラ、テアトロ・レアル、シカゴ・リリック・オペラなど、世界各地の歌劇場、音楽祭に出演。最近では、モンテカルロ歌劇場『ロベルト・デヴリュー』ノッティンガム公爵、『ファルスタッフ』フォード、トリノ王立歌劇場、パルマ王立歌劇場、レッジョ・エミリア歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、フィレンツェ歌劇場『放蕩者のなりゆき』ニック・シャドウ、ローマ歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座『チェネレントラ』ダンディーニ、ローマ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、パルマ王立劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、英国ロイヤルオペラ『魔笛』パパゲーノに出演。09年、スカラ座『囚われ人』タイトルロールによりアッビアーティ賞受賞。17年には『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロでBBCミュージック・マガジン賞「オペラ賞」を受賞した。新国立劇場では21年『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵に出演。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

騎士長:田中大揮(バス・バリトン)
Il Commendatore : TANAKA Taiki

昭和音楽大学卒業、同大学院修了。19年渡伊。12年『フィガロの結婚』バルトロで藤原歌劇団にデビュー以降、『仮面舞踏会』サムエル、『トスカ』シャルローネ、『愛の妙薬』ドゥルカマーラ、『セビリアの理髪師』バルトロ、『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『二人のフォスカリ』ヤコポ・ロレダーノなどで出演し、いずれも好評を得ている。日本オペラ協会には、21年『キジムナー時を翔ける』区長/地頭代、23年『夕鶴』惣どなどに出演。また文化庁人材育成『ジャンニ・スキッキ』ベット、『魔笛』弁者、藤沢市民オペラ『トスカ』シャルローネ/牢番、ひろしまオペラルネッサンス『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなど各地でオペラに出演。そのほか『メサイア』『第九』、モーツァルト『レクイエム』などのバス・ソロとしても活躍。新国立劇場では『子どもと魔法』肘掛椅子/木、『ウィリアム・テル』メルクタール、『カルメン』スニガに出演。藤原歌劇団団員。昭和音楽大学非常勤講師。

レポレッロ:ダニエル・ジュリアニーニ(バス)
Leporello : Daniel GIULIANINI

チェゼーナのブルーノ・マデルナ音楽院を優秀な成績で卒業し、ボローニャ歌劇場オペラ学校で研鑽を積む。エッタ・リミティ・コンテスト（2012年）、As.Li.Coコンクール（15年）などの権威あるコンクールで入賞。ヨーロッパ全土で活躍。最近の主な出演作に、テアトロ・レアル『フィガロの結婚』バルトロ、デンマーク王立歌劇場『アイーダ』ランフィス、トリノ王立歌劇場『仮面舞踏会』サムエル、マルメ歌劇場『セビリアの理髪師』バルトロ、チューリヒ歌劇場『エリオガバロ』ネルブローネ役のデビュー、トリノ王立歌劇場『蝶々夫人』ボンゾ、香港オペラ『イル・トロヴァトーレ』フェルランドがある。今後の予定に、マルメ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、パリ・オペラ座『リゴレット』モンテローネ、トレヴィーゾ歌劇場『愛の妙薬』ドゥルカマーラがある。新国立劇場初登場。

ドンナ・アンナ:イリーナ・ルング(ソプラノ)
Donna Anna : Irina LUNGU

ロシア出身。ミラノ・スカラ座アカデミー在籍中にリッカルド・ムーティによりミラノ・スカラ座2003/04シーズン開幕公演『モイーズとファラオン』アナイ役に抜擢され、同劇場で『愛の妙薬』アディーナ、『マリア・ストゥアルダ』タイトルロールなどに出演。ミラノ・スカラ座の『椿姫』ヴィオレッタは07年にデビュー後、08年、13年にも出演している。瞬く間に世界のオペラ界の主要アーティストとなり、パルマ王立歌劇場、ローマ歌劇場、ヴェローナ音楽祭、トリノ王立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、フェニーチェ歌劇場などに出演。最近のロールデビューに、新国立劇場及びミラノ・スカラ座で『シモン・ボッカネグラ』アメーリア、スカラ座『道化師』ネッダ、チューリヒ歌劇場『海賊』イモージュネ、『ファルスタッフ』アリーチェがある。またスカラ座『ラ・ボエーム』ムゼッタ／ミミ、チューリヒ歌劇場『イタリアのトルコ人』フィオリッラ、『ルチア』タイトルロール、ベルリン州立歌劇場『椿姫』ヴィオレッタ、『リゴレット』ジルダ、フィレンツェ歌劇場『ファルスタッフ』アリーチェなどに出演している。新国立劇場では17年『椿姫』ヴィオレッタ、21年『ルチア』タイトルロール、23年『シモン・ボッカネグラ』アメーリアに出演した。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ドン・オッターヴィオ：デイヴ・モナコ（テノール）
Don Ottavio : Dave MONACO

洗練されたフレージングと無理のない高音が絶賛されるイタリアの若手テノール。2022年にロッシーニ・アカデミーのメンバーとして『ランスへの旅』リーベンスコフ役に出演しロッシーニ・フェスティバルにデビュー。若手ロッシーニ・テノールで最も注目されるひとり。ポルトフィーノ国際声楽コンクール、ザンドナーイ音楽コンクールなどの国際コンクールで入賞。ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場『イタリアのトルコ人』ドン・ナルチーゾ、『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、トゥーロン歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、トリエステ・ヴェルディ劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』テバルドに出演。23/24シーズンには『ウィリアム・テル』リュオディでミラノ・スカラ座にデビューし、トリエステ・ヴェルディ劇場『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、フィレンツェ歌劇場『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵にも出演。24/25シーズンはモデナ歌劇場へ『エジプトのモゼ』オシリデ、ロレーヌ・オペラへ『チェネレントラ』でデビューするほか、ニース・オペラ、フェニーチェ歌劇場、ボローニャ歌劇場で『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ローマ歌劇場『アルジェのイタリア女』リンドーロなどにも出演予定である。新国立劇場初登場。

ドンナ・エルヴィーラ：サラ・コルトレツィス（ソプラノ）
Donna Elvira : Sara CORTOLEZZIS

イタリアのソプラノ。ヴェネツィア近郊メストレ出身。2022年ヴォーチ・ヴェルディアーネ国際コンクールで最優秀女声賞のカルロ・ベルゴンツィ賞と特別賞のレナータ・テバルディ賞を受賞。19年ヴィジェーヴァノ市国際コンクール、21年スポレート歌劇場歌唱コンクールなどで優勝。18年にパドヴァ・バルバリゴ劇場で『椿姫』ヴィオレッタに出演してデビューし、スポレートとペルージャで『蝶々夫人』タイトルロールに、22年スポレート歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナに出演。ノヴァーラ・コッチャ劇場『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、ボローニャ歌劇場『シチリアの晩鐘』エレナ、バーリ・ペトルッツェッリ劇場『オテロ』デズデーモナなど重要な出演が続く。23/24シーズンには、トリエステ・ヴェルディ劇場『アンナ・ボレーナ』タイトルロール、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場『イル・カンピエッロ』ルシエータ、トッレ・デル・ラーゴ・プッチーニ音楽祭『ラ・ボエーム』ムゼッタに出演。24/25シーズンには、トリエステ及びボルツァーノとトレントのハイドン財団で『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタに出演するほか、エルル・チロル音楽祭『ラ・ボエーム』ミミ、オペラ・ノースの英国ツアーで『シモン・ボッカネグラ』のアメーリアに出演予定。新国立劇場初登場。

マゼット：近藤　圭（バリトン）
Masetto : KONDO Kei

国立音楽大学卒業。同大学院を首席で修了。新国立劇場オペラ研修所第9期修了。ロームミュージックファンデーション奨学生として、ドイツ・ハンブルクに留学。沼尻竜典指揮トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ定期公演『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』伯爵役で２年連続出演。小澤征爾指揮『子供と魔法』時計、二期会『ナクソス島のアリアドネ』ハレルキン、日生劇場『リア』フランス国王、『ラ・ボエーム』ショナール、東京芸術劇場『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、グランドオペラ共同制作『カルメン』モラレス、小澤征爾音楽塾『カルメン』ダンカイロなどに出演している。新国立劇場には16年『魔笛』パパゲーノに急遽出演して本格的にデビューし同役に出演を重ねるほか、『夏の夜の夢』ディミートリアス、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレス、『夢遊病の女』アレッシオに出演。本年7月には高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレスに出演予定。二期会会員。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ツェルリーナ：盛田麻央（ソプラノ）
Zerlina : MORITA Mao

国立音楽大学卒業、同大学院フランス歌曲コース修了。二期会オペラ研修所修了時に優秀賞及び奨励賞受賞。パリ・エコール・ノルマル音楽院、パリ国立高等音楽院修士課程を最優秀の成績で修了。第17回日仏声楽コンクール第1位及び竹村賞受賞、第12回東京音楽コンクール第2位、第8回エレーナ・オブラスツォヴァ国際ヤングオペラコンクール第3位。二期会『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『フィガロの結婚』バルバリーナ、東京文化会館『アマールと夜の訪問者』アマール、調布市民オペラ『椿姫』ヴィオレッタ、首都オペラ『トゥーランドット』リューのほか、小澤征爾音楽塾『子どもと魔法』、日生劇場『ルサルカ』『魔笛』などに出演。近年も20年二期会『メリー・ウィドウ』ヴァランシエンヌ、21年同『魔笛』パミーナ、23年宮崎国際音楽祭『仮面舞踏会』オスカルなどに出演。新国立劇場では『子どもと魔法』安楽椅子／羊飼いの娘／ふくろう／こうもりに出演。二期会会員。

2026 年 4/2～4/12
＜レパートリー＞
Repertory

椿姫

La Traviata

●会員先行販売期間：2026年1/17（土）～2/3（火）
●一般発売日：2026年2/8（日）

オペラパレス｜ 5回公演 ｜ 全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1853年3月6日／フェニーチェ歌劇場（ヴェネツィア）
作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ
原作：アレクサンドル・デュマ・フィス
台本：フランチェスコ・マリア・ピアーヴェ

プロダクションについて

オペラの代名詞的作品として、圧倒的人気を誇るヴェルディ中期の傑作『椿姫』。華やかなパリ社交界を舞台に、高級娼婦ヴィオレッタの純愛と悲劇的な運命が、美しくドラマティックな音楽で描かれます。悲劇的な前奏曲に始まり、幕開けの夜会で歌われる有名な「乾杯の歌」をはじめ、愛に揺れるヴィオレッタのアリア「ああ、そは彼の人か～花から花へ」、父ジェルモンの切々たる「プロヴァンスの海と陸」など名曲が次々に続く、オペラの醍醐味に満ちた決定的名作です。

新国立劇場のブサール演出は、スタイリッシュで美しい舞台と洗練された衣裳も大きな見どころ。誇り高く生きた女性ヴィオレッタの姿が細やかな心理表現で描かれ、深い共感を誘います。求心的な演出がオペラパレスを感動で包む、大好評のプロダクションです。

注目のヴィオレッタにはスター街道を駆け上っている新星カロリーナ・ロペス・モレノ、アルフレードにヴェルディを得意とする注目株アントニオ・コリアーノが出演。父ジェルモンにはバリトンのスター、ロベルト・フロンターリが登場します。指揮はコンサートとオペラで活躍中のレオ・フセインです。

2024 年公演より

あらすじ

【第1幕】パリ社交界の華である高級娼婦ヴィオレッタは、肺の病で先が長くないことを悟っている。今夜も自宅のサロンでパーティを開催。ガストン子爵が、青年アルフレードを連れてくる。彼は「１年前にあなたを見て以来ずっと恋している」と真摯にヴィオレッタに告白するのだった。ひとりになったヴィオレッタは、今まで経験したことのない、心からの愛の告白に心ときめくが、たかが愛のために享楽的な人生は捨てられない、と我に返る。

【第2幕】アルフレードとの愛を選んだヴィオレッタは、パリ郊外の田舎で彼と静かに暮らしているが、生活費のため全財産を競売にかけようとしていた。それを知ったアルフレードは競売を止めさせようとパリへ向かう。すれ違いでヴィオレッタが帰宅すると、家にはアルフレードの父ジェルモンが。アルフレードの妹の縁談を成立させるため、息子と別れるようジェルモンは頼む。今は彼との愛だけが生きる希望であるヴィオレッタは、はじめ拒むが承諾し、別れの手紙を書いて家を出る。事情を知らないアルフレードは手紙に愕然とし、父が「一緒に故郷に戻ろう」と慰めても聴く耳をもたない。アルフレードは怒りが収まらず、夜会の大勢の客の前でヴィオレッタを罵倒する。彼女は絶望に打ちのめされる。

【第3幕】1ヵ月後。死の床に伏しているヴィオレッタ。そこに、父ジェルモンからすべてを聞いたアルフレードが来て、許しを乞い、パリを離れて一緒に暮らそうと語る。ヴィオレッタは愛する人に囲まれ息絶える。

ジュゼッペ・ヴェルディ

椿姫

Giuseppe Verdi / La Traviata

全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	レオ・フセイン Leo HUSSAIN
演出・衣裳 Production and Costume Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ヴァンサン・ブサール Vincent BOUSSARD
美術 Set Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ヴァンサン・ルメール Vincent LEMAIRE
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	グイド・レヴィ Guido LEVI
ムーヴメント・ディレクター Movement Director	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ヘルゲ・レトーニャ Helge LETONJA
ヴィオレッタ Violetta Valéry	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	カロリーナ・ロペス・モレノ Carolina LÓPEZ MORENO
アルフレード Alfredo Germont	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アントニオ・コリアーノ Antonio CORIANÒ
ジェルモン Giorgio Germont	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ロベルト・フロンターリ Roberto FRONTALI
フローラ Flora Bervoix	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	谷口睦美 TANIGUCHI Mutsumi
ガストン子爵 Visconte Gastone	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	金山京介 KANAYAMA Kyosuke
ドゥフォール男爵 Barone Douphol	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	成田博之 NARITA Hiroyuki
ドビニー侯爵 Marchese D'Obigny	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	清水宏樹 SHIMIZU Hiroki
医師グランヴィル Dottor Grenvil	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	久保田真澄 KUBOTA Masumi
アンニーナ Annina	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	花房英里子 HANAFUSA Eriko
合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2026年	4月	2日（木）18:00	4日（土）14:00
		6日（月）14:00	10日（金）14:00
		12日（日）13:00	

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:レオ・フセイン
Conductor : Leo HUSSAIN

イギリスの指揮者。ケンブリッジ大学と王立音楽院で学ぶ。ルーアン歌劇場、ザルツブルク州立劇場の音楽監督を経て、現在ジョルジェ・エネスク・フィルハーモニー首席客演指揮者。レパートリーの中核にロマン派を置く。英国ロイヤルオペラへ2016年にエネスク『オイディプス王』でデビューして絶賛される。サンタフェ・オペラ『カプリッチョ』、グラインドボーン音楽祭『ルクレツィアの凌辱』、モネ劇場、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、バイエルン州立劇場、ベルリン州立歌劇場などのオペラを指揮。ジョルジェ・エネスク音楽祭では『グレの歌』『ヴォツェック』を指揮。最近の成功作に、英国ロイヤルオペラ『魔笛』、フランクフルト歌劇場『ロンドンのイタリア女』、トゥールーズ・キャピトル劇場『ヴォツェック』『死の都』、テアトロ・レアル『ラクメ』など。23/24シーズンはバイエルン州立歌劇場『カルメン』、ウェールズ・ナショナル・オペラ『ヴェニスに死す』、ハンブルク歌劇場『ドン・カルロ』、フランクフルト歌劇場『サロメ』、トゥールーズ・キャピトル劇場『ペレアスとメリザンド』を指揮したほか、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団を指揮してザルツブルク音楽祭へデビューした。24/25シーズンは、ハノーファー歌劇場『サロメ』、ハンブルク州立歌劇場『魔笛』、ノルウェー国立オペラ『ヘンゼルとグレーテル』、ザクセン州立歌劇場『サウル』のほか、ミュンヘン放送管弦楽団、ジョルジェ・エネスク・フィルハーモニー、オークランド・フィルと共演予定。新国立劇場初登場。

演出・衣裳:ヴァンサン・ブサール
Production and Costume Design : Vincent BOUSSARD

1999年コメディ・フランセーズにて演出家デビュー。これまでに、ベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場、スウェーデン王立歌劇場、モネ劇場、サンフランシスコ・オペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭、インスブルック音楽祭など各地の歌劇場や音楽祭に登場。演出作品には、パーセル『ディドとエネアス』、ヘンデル『テオドーラ』、シャルパンティエ『オルフェウスの冥府下り』、カヴァッリ『エリオガバロ』などのバロック・オペラ、メノッティ『マリア・ゴロヴィン』、ブノワ・メルニエ『春の目覚め』などの現代オペラのほか、『偽の女庭師』『カプレーティ家とモンテッキ家』『カルメン』『蝶々夫人』『サロメ』『アドリアーナ・ルクヴルール』『キャンディード』など多岐に渡る。最近では、ストラスブール・ラン歌劇場で『椿姫』、リトアニア国立オペラ『マノン』、ザルツブルク・イースター音楽祭『オテロ』、ザンクト・ガレン歌劇場『ローエングリン』、リセウ大劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』、ワロン王立歌劇場『清教徒』などを演出。幾つかのプロダクションはテレビ放映やDVD化され、『春の目覚め』はディアパソン・ドール賞を受賞している。

ヴィオレッタ:カロリーナ・ロペス・モレノ(ソプラノ)
Violetta Valéry : Carolina LÓPEZ MORENO

ドイツ出身のボリビア系アルバニア人ソプラノ。シュトゥットガルト音楽大学を卒業後、同大学オペラシューレ、ニューヨーク・マンハッタン音楽院、ダルトロ・カント・プログラムで研鑽を積む。エリザベス・コネルコンクール優勝のほか、ポルトフィーノ国際声楽コンクール、ヴィーニャス国際コンクール、メトロポリタン歌劇場ナショナル・カウンシル・オーディションなどで入賞。22年にバーデン・バーデン祝祭劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントゥッツァに出演後、ワロン歌劇場『アドリアーナ・ルクヴルール』タイトルロール、『ファルスタッフ』アリーチェ、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、カリアリ歌劇場『ラ・ボエーム』ミミ、トッレ・デル・ラーゴ・プッチーニ音楽祭、フィレンツェ歌劇場『蝶々夫人』タイトルロール、トリノ王立歌劇場『つばめ』マグダなど主要劇場に次々に出演。24/25シーズンはフィレンツェ歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『椿姫』ヴィオレッタ、リヨン歌劇場『蝶々夫人』タイトルロールなどに出演しており、ワロン歌劇場『フィガロの結婚』伯爵夫人、プッチーニ音楽祭『トゥーランドット』リュー、フィレンツェ歌劇場『ラ・ボエーム』ミミなどに出演予定。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

アルフレード:アントニオ・コリアーノ(テノール)
Alfredo Germont : Antonio CORIANÒ

パルマのベルカント・ユニヴェルサーレ・センターで音楽を学び、ボローニャのアカデミア・フィラルモニカで専門課程を修了。2012年、ラヴェンナ音楽祭『イル・トロヴァトーレ』のマンリーコでデビュー。リッカルド・ムーティ指揮ローマ歌劇場『マクベス』、ジェームズ・コンロン指揮フィレンツェ歌劇場での『マクベス』、ヴァレリー・ゲルギエフ指揮ミラノ・スカラ座で『マクベス』など権威のある指揮者のもとで出演を重ねる。レパートリーには、最近バルセロナ・リセウ大劇場でデビューした『蝶々夫人』と『トスカ』、『ノルマ』、『ラ・ジョコンダ』、『カルメン』、『アドリアーナ・ルクヴルール』、モンテカルロ歌劇場でデビューし、パルマ王立劇場でも出演した『アロルド』『仮面舞踏会』『ふたりのフォスカリ』『ルイザ・ミラー』『イル・トロヴァトーレ』『第一次十字軍のロンバルディア人』などがある。最近では、パルマ王立劇場で開催されたヴェルディ・フェスティバル2024へフリッツァ指揮『アッティラ』でデビューを飾った。新国立劇場初登場。

ジェルモン:ロベルト・フロンターリ(バリトン)
Giorgio Germont : Roberto FRONTALI

オペラ界を代表するバリトン歌手のひとり。1990年代初頭にメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座へデビュー。特に重要な出演に、アバド指揮『セビリアの理髪師』、ミラノ・スカラ座で10年に渡り共演したムーティ指揮『椿姫』『ファルスタッフ』『ドン・パスクワーレ』、メータ指揮『運命の力』『ルチア』『ファルスタッフ』、ザクセン州立歌劇場『ドン・カルロ』、フェニーチェ歌劇場『リゴレット』などがある。最近の特筆すべき出演に、ウィーン国立歌劇場『アドリアーナ・ルクヴルール』ミショネ、『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場、テアトロ・レアル『リゴレット』、ロサンゼルス・オペラ、ローザンヌ歌劇場『ファルスタッフ』、ローマ歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、サンフランシスコ・オペラ、フェニーチェ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ローマ歌劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、トリノ王立歌劇場『オテロ』イアーゴ、メトロポリタン歌劇場『シラノ・ド・ベルジュラック』ド・ギッシュ伯爵、パリ・オペラ座『マクベス』タイトルロール、フィレンツェ歌劇場『ペレアスとメリザンド』ゴローなどがある。新国立劇場では98年『セビリアの理髪師』フィガロ、2002年『ルチア』エンリーコ、15年『トスカ』スカルピア、23年『リゴレット』タイトルロール、『シモン・ボッカネグラ』タイトルロールに出演している。

フローラ:谷口睦美(メゾソプラノ)
Flora Bervoix : TANIGUCHI Mutsumi

東京藝術大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオマスタークラス修了時に優秀賞受賞。第19回出光音楽賞受賞。平成22年度よんでん芸術文化奨励賞受賞。二期会『皇帝ティトの慈悲』セストで一躍注目を集め、以降、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『カプリッチョ』クレロン、『ドン・カルロ』エボリ公女、『リゴレット』マッダレーナ、三河市民オペラ『イル・トロヴァトーレ』アズチェーナ、びわ湖ホール『ラインの黄金』フリッカ、『神々の黄昏』ワルトラウテ、『ローエングリン』オルトルート等出演。23年神奈川フィル・京都市交響楽団・九州交響楽団『サロメ』ヘロディアスで好評を博す。新国立劇場では『ナブッコ』フェネーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ、『鹿鳴館』大徳寺公爵夫人季子、『ホフマン物語』アントニアの母の声／ステッラ、『椿姫』アンニーナ、『夢遊病の女』テレーザなどに出演。21年鑑賞教室及びびわ湖ホール公演『カルメン』タイトルロールでも好評を博した。25/26シーズンは『リゴレット』ジョヴァンナ、『椿姫』フローラ、『エレクトラ』第2の下女に出演予定。二期会会員。

2026 年 5/16～5/27
＜レパートリー＞
Repertory

愛の妙薬

L'elisir d'amore

●会員先行販売期間：2026年2/22（日）～3/10（火）
●一般発売日：2026年3/14（土）

オペラパレス｜ 4回公演 ｜ 全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1832年5月12日　テアトロ・カノッビアーナ
作曲：ガエターノ・ドニゼッティ
台本：フェリーチェ・ロマーニ

プロダクションについて

ベルカント・オペラを代表する作曲家ドニゼッティの人気オペラ・ブッファ（喜劇）。偽の惚れ薬“愛の妙薬”をめぐる、コミカルでちょっぴりホロリとする恋の物語で、世界中で愛される人気作です。テノール屈指の名アリア「人知れぬ涙」をはじめ、ネモリーノのカヴァティーナ「なんて美しい！」、アディーナの告白のアリア「受け取って、私のおかげであなたは自由」、そしてフィナーレのドゥルカマーラの超絶技巧の口上「この薬はなんでも治します」と、色とりどりの美しいナンバーが盛り込まれています。

新国立劇場のリエヴィ演出は遊び心がいっぱい。9メートルもある本や文字、実物大の小型飛行機などがカラフルな舞台上に次々登場し、丁寧な心理描写で恋物語を運びます。目にも耳にも楽しい『愛の妙薬』は、初めてのオペラにもお薦めです。

アディーナ役は新星ソプラノとして大注目のフランチェスカ・ピア・ヴィターレ、ネモリーノには22年の『椿姫』で伸びやかな声が好評を博したマッテオ・デソーレが登場。薬売りドゥルカマーラには同役やモーツァルトで大活躍中のマルコ・フィリッポ・ロマーノ、恋敵となる軍曹ベルコーレには大人気バリトンのシモーネ・アルベルギーニが出演する贅沢さ。指揮はイタリアの重鎮マルコ・ギダリーニです。

2013 年公演より

あらすじ

【第1幕】農場主の娘アディーナが村人たちにトリスタンとイゾルデの惚れ薬の物語を読み聞かせている。ネモリーノは彼女に恋している。軍曹ベルコーレが兵隊と共に登場、アディーナに目を留める。ネモリーノも彼女を呼び止めるがつれなくされる。偽医者のドゥルカマーラがネモリーノに「愛の妙薬」と偽ってワインを売りつけ、一日後に効き目が出ると騙す。軍曹に出発命令が届き、アディーナに「今日中に結婚しよう」と告げる。それでは妙薬が効かないと焦ったネモリーノはもう一日待ってくれと頼んで笑い者になる。アディーナは宴に皆を招き、ネモリーノはひとり偽医者の助けを求めて叫ぶ。

【第2幕】アディーナと軍曹の結婚祝いの席。アディーナは姿の見えないネモリーノを気にする。ネモリーノは妙薬をまた買う金を求めて、ベルコーレに入隊を志願する。娘たちが「ネモリーノが親戚の莫大な遺産を相続した」と噂する。娘たちに急にちやほやされて、ネモリーノは薬の効き目を実感する。アディーナはネモリーノが妙薬のために入隊を志願したと聞きほろりとする。彼女の涙を目にしたネモリーノは、名アリア〈人知れぬ涙〉で彼女の心のうちを悟ったと歌う。アディーナは、ベルコーレから買い戻した入隊契約書をネモリーノに差し出すが、彼は「愛してもらえないのなら兵隊になって死にたい」と叫ぶ。二人は本心を告げあう。ベルコーレが登場、潔くアディーナを諦める。村を去るドゥルカマーラを、一同がにぎやかに見送る。

ガエターノ・ドニゼッティ

愛の妙薬

Gaetano Donizetti / L'elisir d'amore

全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マルコ・ギダリーニ Marco GUIDARINI
演出 Production	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	チェーザレ・リエヴィ Cesare LIEVI
美術 Set Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ルイジ・ペーレゴ Luigi PEREGO
衣裳 Costume Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マリーナ・ルクサルド Marina LUXARDO
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	立田雄士 TATSUTA Yuji
アディーナ Adina	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	フランチェスカ・ピア・ヴィターレ Francesca Pia VITALE
ネモリーノ Nemorino	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マッテオ・デソーレ Matteo DESOLE
ベルコーレ Belcore	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	シモーネ・アルベルギーニ Simone ALBERGHINI
ドゥルカマーラ Dulcamara	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マルコ・フィリッポ・ロマーノ Marco Filippo ROMANO
ジャンネッタ Giannetta	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	今野沙知恵 KONNO Sachie
合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2026年	5月	16日（土）14:00	20日（水）19:00
		23日（土）14:00	27日（水）14:00

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【 会 場 】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:マルコ・ギダリーニ
Conductor : Marco GUIDARINI

ポーランド・ポズナン歌劇場首席指揮者。高度な音楽の知識に人文学的探究を融合し、モーツァルトやベルカント、ヴェルディやプッチーニの主要作、『ヴォツェック』まで、200以上の交響曲、70以上のオペラを指揮。メトロポリタン歌劇場（『リゴレット』）からミラノ・スカラ座(『劇場の都合、不都合』)、シドニー・オペラ(『トスカ』『魔笛』『コジ・ファン・トゥッテ』)、ボリショイ劇場(『トゥーランドット』)、コロン劇場(『ファルスタッフ』)など、世界の主要歌劇場で指揮。2001年から09年までニース・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を務める。パリのベッリーニ・ベルカント国際コンクールの芸術監督を10年間務める。フランス放送フィルと『妖精ヴィッリ』を録音し、シャルル・クロックス賞「オルフェ・ドール」を受賞。フランス文化省よりシュヴァリエ・デ・アート・エ・デ・レットルを、イタリア政府より星の騎士章を、18年には、音楽を通じた芸術と人道主義の国際大使として、ポール・ハリス・フェローの称号も授与されている。新国立劇場初登場。

演出:チェーザレ・リエヴィ
Production : Cesare LIEVI

イタリアのブレシア・ガルニャーノ生まれ。イタリア、ドイツ、オーストリアで1980年代に舞台演出家として成功を収める。オペラの分野では90年代よりミラノ・スカラ座でシーズン・オープニングの『パルジファル』、ウィーン国立歌劇場『ジェズアルド』、メトロポリタン歌劇場『チェネレントラ』、ベルリン州立歌劇場『マノン』、モデナ市立劇場『ピーター・グライムズ』、カターニャ・ベッリーニ劇場『ラインの黄金』『ワルキューレ』などを手がけている。チューリヒ歌劇場には継続的に招かれ、『妖精ヴィッリ』『道化師』『シチリアの晩鐘』『ジュリオ・チェーザレ』『アルジェのイタリア女』など数多くの作品を発表している。最近ではサンパウロ歌劇場『マノン・レスコー』、クラーゲンフルト歌劇場『カルメン』、モンテカルロ歌劇場『ワリー』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『ドン・カルロ』などの新演出を手がけている。

アディーナ:フランチェスカ・ピア・ヴィターレ（ソプラノ）
Adina : Francesca Pia VITALE

OPERA WIRE 2022のオペラ界の新星トップ10に選出される。2020年ミラノ・スカラ座アカデミー修了。スカラ座へは『愛の妙薬』ジャンネッタでデビューし、『はじめに音楽、次に言葉』『ジャンニ・スキッキ』、『リゴレット』小姓、『子どものためのチェネレントラ』クロリンダに出演。カリアリ歌劇場へ『ヘンゼルとグレーテル』でデビュー。スカラ座の20年秋シーズンには『椿姫』アンニーナに出演。その後アルチンボルディ劇場『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、ヴェローナ歌劇場『椿姫』に出演。22年には『夢遊病の女』リーザでヴィシー、アヴィニヨン、メス、ランスなどフランス各地に登場。スカラ座『秘密の結婚』エリゼッタ、パドヴァでは『カプレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、マスカットのロイヤル・オペラでは『フィガロの結婚』スザンナ、スカラ座『小舟に乗った恋人たち』チオマ、『ウェルテル』ソフィーに出演。バーリ・ペトルッツェッリ劇場とボルドー歌劇場で『ラ・ボエーム』ムゼッタ、パレルモ・マッシモ劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』、トリノ王立歌劇場『ドン・パスクワーレ』ノリーナに出演している。今後の予定に、ハノーファー歌劇場『リゴレット』、ローマ歌劇場『羊飼いの王様』エリーザなどがある。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

ネモリーノ:マッテオ・デソーレ（テノール）
Nemorino: Matteo DESOLE

サッサリ出身。モデナで学び、2015年にボローニャ歌劇場『マクベス』マルコムでデビュー後、ヨーロッパ各地の劇場に次々にデビュー。最近では、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、フィレンツェ歌劇場『椿姫』アルフレード、カリアリ歌劇場『ルチア』エドガルド、エルルで『ラ・ボエーム』ロドルフォ、フィレンツェ歌劇場『つばめ』ルッジェーロ、モデナ、フェッラーラ、レッジョ・エミリアで『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、ロンドン・ホランドパーク・オペラ『椿姫』、クラーゲンフルト歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ、ミラノ・スカラ座『フランチェスカ・ダ・リミニ』『群盗』、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』、バーリ・ペトルッツェッリ劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演している。新国立劇場へは22年『椿姫』アルフレードでデビューした。

ベルコーレ:シモーネ・アルベルギーニ（バス・バリトン）
Belcore : Simone ALBERGHINI

ボローニャ生まれ。1994年オペラリア・コンクール優勝。ミラノ・スカラ座、グラインドボーン音楽祭、フィレンツェ歌劇場、ワシントン・オペラ、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ボローニャ歌劇場、バイエルン州立歌劇場などの主要劇場へ出演を重ねる。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルに『オテロ』『タンクレディ』『泥棒かささぎ』『ウィリアム・テル』など数多く出演。『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵／フィガロ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールのほか、『チェネレントラ』ダンディーニ、『ホフマン物語』悪役、『カルメン』エスカミーリョなど、モーツァルト、ロッシーニをはじめイタリア及びフランスオペラをレパートリーとする。最近ではボローニャ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』パオロ、トリノ王立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、サン・カルロ歌劇場『ラ・ボエーム』マルチェッロ、ボローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、フェニーチェ歌劇場『アルジェのイタリア女』ムスタファ、『椿姫』ジェルモンなどに出演している。新国立劇場では22年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、23年『シモン・ボッカネグラ』パオロに出演した。

ドゥルカマーラ:マルコ・フィリッポ・ロマーノ（バリトン）
Dulcamara : Marco Filippo ROMANO

カルタニッセッタ（シチリア）生まれ。パレルモのベッリーニ音楽院ホルン科卒業後、歌手として研鑽を積む。ミラノ・スカラ座、フィレンツェ歌劇場、テアトロ・レアル、バイエルン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ノルウェー国立オペラなどに登場。ペーザロ・ロッシーニ・フェスティバル『ランスへの旅』『マティルデ・ディ・シャブラン』、ヴィルトバード・ロッシーニ音楽祭『ウィリアム・テル』『コリントの包囲』も絶賛される。ロッシーニやモーツァルト、『ドン・パスクワーレ』タイトルロール、『愛の妙薬』ドゥルカマーラ／ベルコーレなどのほか、18世紀や20世紀のオペラもレパートリーとする。最近の主な出演に、フィレンツェ歌劇場『ドン・パスクワーレ』タイトルロール、ザクセン州立歌劇場、パルマ王立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、サヴォンリンナ音楽祭『セビリアの理髪師』、ボローニャ歌劇場『愛の妙薬』ドゥルカマーラ、ミラノ・スカラ座『小舟に乗った恋人たち』など。2024/25シーズンはフィレンツェ歌劇場『チェネレントラ』、ベルリン・ドイツ・オペラ、フェニーチェ歌劇場、ウィーン国立歌劇場『セビリアの理髪師』バルトロ、ミラノ・スカラ座『運命の力』フラ・メリトーネなどに出演予定。新国立劇場初登場。

2026 年 5/24～5/30
＜レパートリー＞
Repertory

ウェルテル

Werther

●会員先行販売期間：2026年2/28（土）～3/9（月）
●一般発売日：2026年3/15（日）

オペラパレス｜ 4回公演 ｜ 全4幕〈フランス語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1892年2月16日／ウィーン宮廷歌劇場
作曲：ジュール・マスネ
原作：ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ
台本：エドゥアール・ブロー、ポール・ミリエ、ジョルジュ・アルトマン

プロダクションについて

多感な青年ウェルテルと貞淑なシャルロットの成就することのない恋を描いた文豪ゲーテの『若きウェルテルの悩み』を、マスネがオペラ化した作品。“ウェルテル効果”といった社会現象を引き起こすほどの大人気小説であった『若きウェルテルの悩み』が、マスネならではの色彩豊かな音楽でオペラ化されています。シャルロットの「手紙の歌」、ウェルテルの「オシアンの詩（春風よ、なぜ目を覚まさせるのか）」など、独立して歌われることも多いドラマティックなアリアも魅力。フランスオペラの代名詞と言える作曲家マスネの中でも、『マノン』と並び世界的に上演の多い人気オペラです。

ニコラ・ジョエルの演出は、ゲーテの原作の世界を具現化したような美しい舞台と正統派のアプローチで評判となったもの。第１幕では自然の繊細な美しさが、終幕では逃れようのない閉塞感が観る者の心を揺さぶります。

ウェルテル役には、リリック・テノールの世界的スター、チャールズ・カストロノーヴォが待望の新国立劇場デビュー。シャルロットには、ベルカントからレパートリーを拡げ、成熟した表現が世界的に評価される脇園彩が出演します。指揮には『エウゲニ・オネーギン』『椿姫』の繊細なアプローチで共感を呼んだアンドリー・ユルケヴィチが登場します。

2016 年公演より

あらすじ

【第1幕】7月。子供たちがクリスマス・キャロルの練習をしている大法官の家に、詩人ウェルテルが舞踏会で大法官の長女シャルロットの相手をつとめるためにやって来る。幼い弟妹たちの母親代わりをするシャルロットの美しい佇まいに、ウェルテルの胸がときめく。舞踏会から帰宅したウェルテルはたまらずシャルロットに愛を告白する。しかし彼女には、亡くなった母と約束した婚約者アルベールがいた。ウェルテルは絶望する。

【第2幕】9月。牧師の金婚式のため、教会に人が集まっている。結婚して3か月目のシャルロットとアルベールが教会に入る様子を、ウェルテルは遠くから眺めている。シャルロットの妹ソフィーがウェルテルへの好意を口にする。教会から出てきたアルベールに明るく振る舞うウェルテルだが、シャルロットには詰め寄り、再び愛を訴える。その思いに応えられないシャルロットは、街を離れることをウェルテルに勧め、クリスマスに再会することを約束する。ウェルテルは永遠に街を出ていくことを決意する。

【第3幕】クリスマス・イブの夕方。ウェルテルからの手紙を何度も読み返し、彼への思いに揺れるシャルロットの前に、約束通りウェルテルが現れる。オシアンの詩に思いを託して朗読したウェルテルは、激しく愛を告白する。シャルロットは思わず抱かれるが、決然と別れを告げて部屋から去る。アルベールは、ウェルテルから妻宛ての手紙を見て怒りに燃える。手紙の中で彼は旅に携行する銃を望んでおり、アルベールは使用人に届けさせる。

【第4幕】胸さわぎを覚えたシャルロットがウェルテルの家へ向かうと、拳銃自殺を図ったウェルテルが瀕死の状態で横たわっていた。ウェルテルは、君を思って死ねるのは何より幸せだと語り、シャルロットは、初めて会った時から愛していたと告白し、口づけする。子供たちが歌うクリスマス・キャロルが聴こえるなか、ウェルテルは息を引き取る。

ジュール・マスネ

ウェルテル

Jules MASSENET / Werther

全4幕〈フランス語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アンドリー・ユルケヴィチ Andriy YURKEVYCH
演出 Production	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ニコラ・ジョエル Nicolas JOEL
美術 Set Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	エマニュエル・ファーヴル Emmanuelle FAVRE
衣裳 Costume Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	カティア・デュフロ Katia DUFLOT
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ヴィニチオ・ケリ Vinicio CHELI
ウェルテル Werther	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	チャールズ・カストロノーヴォ Charles CASTRONOVO
シャルロット Charlotte	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	脇園　彩 WAKIZONO Aya
アルベール Albert	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	須藤慎吾 SUDO Shingo
ソフィー Sophie	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	砂田愛梨 SUNADA Airi
大法官 Le Bailli	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	伊藤貴之 ITO Takayuki
シュミット Schmidt	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	村上公太 MURAKAMI Kota
ジョアン Johann	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	駒田敏章 KOMADA Toshiaki
ブリュールマン Brühlmann	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	水野 優 MIZUNO Yu
		ほか
合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2026年	5月	24日（日）14:00	26日（火）14:00
		28日（木）18:00	30日（土）14:00

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【　会　場　】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:アンドリー・ユルケヴィチ
Conductor : Andriy YURKEVYCH

ウクライナ出身。2022年よりプラハ国立歌劇場音楽監督。リヴィウ音楽大学を卒業し、シエナのキジアーナ音楽院でゼッダ、ジェルメッティのもとで学ぶ。リヴィウ歌劇場常任指揮者となった後、ウクライナ国立オデッサ歌劇場、モルドバ国立歌劇場、ポーランド国立歌劇場音楽監督を歴任。05年ローマ歌劇場へデビュー。その後モンテカルロ歌劇場、モネ劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、チリ・サンチャゴ市立劇場、ギリシャ国立歌劇場などへ招かれる。最近ではジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場、ボローニャ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』、ボローニャ歌劇場、ハンガリー国立歌劇場、テネリフェ歌劇場『ルクレツィア・ボルジア』、ダルムシュタット歌劇場、ヴェローナ歌劇場、ニース歌劇場『ルチア』、カルロ・フェリーチェ歌劇場『道化師』、モルドバ国立歌劇場『椿姫』、ニース歌劇場『蝶々夫人』、プラハ国立歌劇場『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』『椿姫』『蝶々夫人』『ナブッコ』『ロメオとジュリエット』『トスカ』『アイーダ』『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』などを指揮している。新国立劇場では19年『エウゲニ・オネーギン』、22年『椿姫』を指揮した。

演出:ニコラ・ジョエル
Production : Nicolas JOEL

パリ出身。1973年から78年までストラスブール・ラン歌劇場で演出アシスタントを務めた後、79年にラン歌劇場とリヨン歌劇場で「ニーベルングの指環」で演出家としてデビューした。90年から2009年までトゥールーズ・キャピトル劇場の芸術監督、09年から14年までパリ・オペラ座総監督。ウィーン国立歌劇場『アイーダ』、サンフランシスコ・オペラ『サムソンとデリラ』、デンマーク王立歌劇場『ローエングリン』、オランダ国立オペラ『エウゲニ・オネーギン』『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』、チューリヒ歌劇場『リゴレット』『椿姫』『運命の力』、ミラノ・スカラ座『つばめ』『マノン』、英国ロイヤルオペラ『ロメオとジュリエット』、メトロポリタン歌劇場『アンドレア・シェニエ』など多くの話題作を手がけた。オランジュ音楽祭では『さまよえるオランダ人』『ナブッコ』『アイーダ』『オテロ』『カルメン』『ロメオとジュリエット』などを続けて演出、成功を収めた。またトゥールーズ・キャピトル劇場在任中は『イル・トロヴァトーレ』『ファルスタッフ』『エレクトラ』『エウゲニ・オネーギン』『リゴレット』『ロメオとジュリエット』などを演出。パリ・オペラ座をはじめ各地で『ロメオとジュリエット』『トゥーランドット』『タイス』『ラ・ジョコンダ』『シチリア島の夕べの祈り』『ディドとエネアス』『ファウスト』などの作品が上演されている。2020年6月逝去。

ウェルテル:チャールズ・カストロノーヴォ(テノール)
Werther : Charles CASTRONOVO

ニューヨーク出身。同世代で最も優れたリリック・テノールのひとりとして国際的に高く評価される。ロサンゼルス・オペラと契約しキャリアをスタートした後、メトロポリタン歌劇場リンデマン若手芸術家育成プログラムに参加。1999年、『道化師』プレミエのベッペ役でメトロポリタン歌劇場デビュー。英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、テアトロ・レアル、ベルリン・ドイツ・オペラ、モネ劇場、バイエルン州立歌劇場、リセウ大劇場、サンフランシスコ・オペラ、シカゴ・リリック・オペラなど、世界有数の歌劇場で活躍中。2023/24シーズンは、ジュネーヴ大劇場で上演された1867年オリジナル版『ドン・カルロス』タイトルロールで開幕し、メトロポリタン歌劇場『仮面舞踏会』リッカルド、テアトロ・レアル『蝶々夫人』ピンカートンなどに出演。24/25シーズンはバレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿『マノン』デ・グリュー、チューリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場『仮面舞踏会』リッカルド、パリ・オペラ座『ドン・カルロス』タイトルロール、英国ロイヤルオペラ『カルメン』ドン・ホセ、バイエルン州立歌劇場『群盗』カルロに出演。24年ミュンヘン国立管弦楽団と録音した「I Canti」でオーパス・クラシック賞受賞。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

シャルロット:脇園 彩(メゾソプラノ)
Charlotte : WAKIZONO Aya

東京生まれ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。2013年文化庁派遣芸術家在外研修員としてパルマ国立音楽院に留学。ペーザロのロッシーニ・アカデミー及びミラノ・スカラ座アカデミー修了。ミラノ・スカラ座をはじめ、パレルモ・マッシモ劇場、テアトロ・レアル、マインツ州立劇場、ベルギー王立ワロン歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに多数出演。日本では17年藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナでオペラデビュー。23年、ファーストアルバム「アモーレAmore」 (BRAVO RECORDS)がリリース。ボローニャ歌劇場来日公演『ノルマ』アダルジーザも絶賛された。24年はジュネーヴ大劇場でドニゼッティ『ロベルト・デヴェリュー』サラ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルで『ビアンカとファッリエーロ』ファッリエーロ、パレルモ・マッシモ劇場で『イングランドの女王エリザベッタ』エリザベッタにそれぞれロールデビューし絶賛される。主にロッシーニ、モーツァルトおよびベルカント作品をレパートリーとしてイタリアを拠点に活動し、世界中から注目されるアーティストのひとり。第52回ENEOS音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。新国立劇場へは19年『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラでデビューし、20年『セビリアの理髪師』ロジーナ、21年『フィガロの結婚』ケルビーノ、『チェネレントラ』タイトルロールに出演し喝采を浴びており、本年5月『セビリアの理髪師』に再登場予定。

アルベール:須藤慎吾(バリトン)
Albert : SUDO Shingo

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊声楽コンコルソ1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位(イタリア)などを受賞。1999年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。2006年帰国し藤原歌劇団に入団、藤原歌劇団『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では『椿姫』ドゥフォール男爵/ジェルモン、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、『ルチア』エンリーコ、『アイーダ』アモナズロ、『リゴレット』モンテローネ伯爵、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『シモン・ボッカネグラ』ピエトロ、『ウィリアム・テル』ヴァルテル・フュルスト、高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『蝶々夫人』シャープレス、鑑賞教室『トスカ』スカルピア、鑑賞教室『カルメン』エスカミーリョなど主要な役で出演を重ねる。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。

ソフィー:砂田愛梨(ソプラノ)
Sophie : SUNADA Airi

東京音楽大学卒業及び同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所修了。在籍中ANAスカラシップによりミラノ・スカラ座アカデミー、バイエルン州立歌劇場オペラ研修所にて研修。文化庁新進芸術家海外研修員、五島記念文化賞オペラ新人賞によりスイス、イタリアで研修。S.リチートラ国際コンクール第2位、G.パスタ国際コンクール及びKoliqi賞国際コンクール第3位、F.リッチ国際コンクール特別賞、イタリア声楽コンコルソミラノ大賞第1位、日本音楽コンクール及び日伊声楽コンコルソ第3位、東京音楽コンクール第2位など受賞多数。2022年サッサリ歌劇場『ドン・パスクワーレ』ノリーナ役でデビュー後、コゼンツァ・レンダーノ劇場、ミラノ・カルカノ劇場、サルザーナ・オペラ・フェスティバルなどで『ドン・パスクワーレ』ノリーナ、『リゴレット』ジルダ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ラ・ボエーム』ムゼッタの役で出演を続けている。日本では2024年11月、日生劇場『連隊の娘』マリー役で本格デビュー。現在、イタリアと日本を拠点に活動している。ミラノ在住。新国立劇場へは『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタに出演。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

大法官：伊藤貴之（バス）
Le Bailli : ITO Takayuki

名古屋芸術大学卒業、同大学院修了。奨学金を得てイタリアで研鑽する。第48回日伊声楽コンコルソ２位や第6回G.ゼッカ国際声楽コンクール第２位入賞するなど受賞歴多数。近年は日生劇場開場60周年記念公演『メデア』クレオンテ、『マクベス』バンクォー、藤沢市民オペラ『魔笛』ザラストロ、藤原歌劇団『ファウスト』メフィストフェレス役で出演しいずれも好評を博す。新国立劇場では『サロメ』兵士2、『オテロ』モンターノ、『カルメン』スニガ、『ウェルテル』大法官、『ルチア』ライモンド、『ホフマン物語』ルーテル／クレスペル、『アイーダ』エジプト国王、鑑賞教室『蝶々夫人』ボンゾ、鑑賞教室『ラ・ボエーム』コッリーネなどに出演。『第九』やヴェルディ『レクイエム』などのソリストとしても活躍している。平成24年度愛知県芸術文化選奨「文化新人賞」を受賞。藤原歌劇団団員。

シュミット：村上公太（テノール）
Schmidt : MURAKAMI Kota

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラに立て続けに客演し好評を博す。二期会『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロート、『椿姫』アルフレード、日生劇場『後宮からの逃走』ペドリッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、サントリーホール『リトゥン・オン・スキン』第3の天使／ヨハネ、グランドオペラ共同制作『カルメン』レメンダード、横須賀芸術劇場『リゴレット』マントヴァ公爵などに出演。新国立劇場では『こうもり』アルフレード、『カルメン』レメンダード、『ファルスタッフ』フェントン、『夏の夜の夢』ライサンダー、『イオランタ』アルメリック、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』クンツ・フォーゲルゲザング、『蝶々夫人』ピンカートン、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』ドン・ホセ、同『蝶々夫人』ピンカートン、同『トスカ』カヴァラドッシなどに出演。本年７月の高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』ピンカートンに出演予定。二期会会員。

ジョアン：駒田敏章（バリトン）
Johann : KOMADA Toshiaki

愛知教育大学を経て東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期生としてオペラを学ぶ。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教師などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてベルリンに留学。2012年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭にラヴェル『スペインの時』ラミーロで出演し、Labberte-Hoedemaker Awardを受賞。第83回日本音楽コンクール(歌曲)第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアン、『ジュリオ・チェーザレ』クーリオ、『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチ/役人、『ラ・ボエーム』ショナール、『トリスタンとイゾルデ』舵取り、『魔笛』パパゲーノに出演。25/26シーズン『ラ・ボエーム』ショナール、『ウェルテル』ジョアン、高校生のためのオペラ鑑賞教室2025ロームシアター京都公演『魔笛』パパゲーノに出演予定。

2026 年 6/29～7/12
＜新制作＞
New Production

エレクトラ

Elektra

●会員先行販売期間：2026年3/21（土）～4/7（火）
●一般発売日：2026年4/11（土）

オペラパレス｜ 5回公演 ｜ 全1幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1909年1月25日／ドレスデン宮廷歌劇場
作曲：リヒャルト・シュトラウス
台本：フーゴ・フォン・ホフマンスタール

プロダクションについて

血塗られた家系アトレウス家の娘エレクトラが盲目的な復讐の情念に燃え、悲願を果たした末に命を絶つ凄惨な復讐劇『エレクトラ』。ソフォクレスのギリシャ悲劇を題材とするドラマは１幕に凝縮され、オペラ史上最大規模といえる分厚いオーケストラとドラマティックなソプラノに支配された音楽が、緊迫、憎悪、恐怖、歓喜、恍惚といったためまぐるしい感情の起伏を緊迫感の中で雄弁に伝えます。

演出は、その音楽的感性が絶賛され、フランクフルト歌劇場で大野和士指揮により世界初演された『Der Mieter』（アルヌルフ・ヘルマン作曲）でも話題を巻き起こしたヨハネス・エラート。エレクトラはこの役を近年フランクフルトなどで立て続けに歌っているアイレ・アッソーニ。エレクトラと対峙する母クリテムネストラには藤村実穂子、弟オレストにエギルス・シリンスが出演する盤石の顔合わせです。指揮は大野和士芸術監督自らが当たります。

あらすじ

母クリテムネストラとその情夫エギストに父アガメムノンを殺されたエレクトラは、母と義父エギストに対する憎悪を隠さず、虐待されている。父への思慕と、復讐を果たすであろう弟オレストへの期待を支えに生きるエレクトラを、妹クリソテミスは必死でなだめる。母クリテムネストラは復讐に怯え悪夢に苛まれるが、エレクトラは助けを求める母を拒絶するのだった。オレストの死が伝えられ、エレクトラは絶望して独力で復讐を実行しようとする。しかし実はオレストは生きていた。オレストが母とエギストを油断させるために流した虚偽の知らせだったのだ。姉弟はついに喜びの再会を果たす。そしてオレストの手によってクリテムネストラ、次いでエギストへの復讐が成就される――。

リヒャルト・シュトラウス

エレクトラ

Richard Strauss / Elektra

全1幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	……	大野和士 ONO Kazushi
演出 Production	……	ヨハネス・エラート Johannes ERATH
クリテムネストラ Klytämnestra	……	藤村実穂子 FUJIMURA Mihoko
エレクトラ Elektra	……	アイレ・アッソーニ Aile ASSZONYI
クリソテミス Chrysothemis	……	ヘドヴィグ・ハウゲルド Hedvig HAUGERUD
エギスト Aegisth	……	工藤和真 KUDO Kazuma
オレスト Orest	……	エギルス・シリンス Egils SILINS
オレストの養育者 Der Pfleger des Orest	……	斉木健詞 SAIKI Kenji
クリテムネストラの腹心の侍女 Die Vertraute	……	中村真紀 NAKAMURA Maki
クリテムネストラの裳裾持ちの女 Die Schleppträgerin	……	杉山由紀 SUGIYAMA Yuki
若い下僕 Ein junger Diener	……	糸賀修平 ITOGA Shuhei
年老いた下僕 Ein alter Diener	……	河野鉄平 KONO Teppei
監視の女 Die Aufseherin	……	森谷真理 MORIYA Mari
第1の下女 Erste Magd	……	金子美香 KANEKO Mika
第2の下女 Zweite Magd	……	谷口睦美 TANIGUCHI Mutsumi
第3の下女 Dritte Magd	……	清水華澄 SHIMIZU Kasumi
第4の下女 Vierte Magd	……	竹多倫子 TAKEDA Michiko
第5の下女 Fünfte Magd	……	田崎尚美 TASAKI Naomi
合唱 Chorus	……	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	……	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2026年	6月	29日（月）19：00	
	7月	2日（木）14：00	5日（日）14：00
		8 日（水）14：00	12 日（日）14：00

【チケット料金】 S：29,700円 ・ A：24,200円 ・ B：17,600円 ・ C：11,000円 ・ D：7,700円
【　会 場　】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:大野和士
Conductor : ONO Kazushi

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、モネ劇場音楽監督、トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のオペラを指揮。新作初演にも意欲的で数多くの世界初演を成功に導く。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。新国立劇場では『魔笛』『トリスタンとイゾルデ』『紫苑物語』『トゥーランドット』『アルマゲドンの夢』『ワルキューレ』『カルメン』『スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』『ラ・ボエーム』『シモン・ボッカネグラ』『ウィリアム・テル』を指揮している。本年8月に『ナターシャ』を、25/26シーズンは『ヴォツェック』『エレクトラ』を指揮する予定。

演出:ヨハネス・エラート
Production : Johannes ERATH

ウィーン・フォルクスオーパーとウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のアカデミーでオーケストラ奏者として活躍後、演出家を志し、ウィリー・デッカー、ニコラ・ブリーガー、ギー・ヨーステン、ペーター・コンヴィチュニーらのアシスタントを務める。初期の演出作品に、エトヴェシュ作曲『パラダイス・リローデッド』（世界初演）、『ホフマン物語』、2008年フリードリヒ賞を受賞した『サンドリヨン』がある。ケルン歌劇場『オルフェオとエウリディーチェ』『アイーダ』『マノン』『ファウスト』、ハンブルク州立歌劇場『椿姫』『利口な女狐の物語』、グラーツ歌劇場『ルル』『ドン・ジョヴァンニ』『エレクトラ』『ローエングリン』『死の都』（15年オーストリア最優秀作品受賞）を演出。フランクフルト歌劇場には09年『エンジェルス・イン・アメリカ』でデビュー後定期的に登場し、『オテロ』『ジュリオ・チェーザレ』『オイリアンテ』『Der Mieter（借家人）』『ロジェ王』を演出。『フィガロの結婚』はザクセン州立歌劇場、サヴォンリンナ音楽祭で、『ホフマン物語』はザクセン州立歌劇場、フィンランド国立オペラ、バレンシアで上演された。最近ではウィーン・フォルクスオーパー『チャールダーシュの女王』、ローマ歌劇場『外套／青ひげ公の城』、ペーザロ・ロッシーニ・フェスティバル『エルミオーネ』、フランクフルト歌劇場『アルチーナ』、バイエルン州立歌劇場『仮面舞踏会』『群盗』、オランダ国立オペラ『キューバのカルーソー』、ブレゲンツ音楽祭『ラインの黄金』などを演出している。新国立劇場初登場。

クリテムネストラ:藤村実穂子（メゾソプラノ）
Klytämnestra : FUJIMURA Mihoko

ヨーロッパを拠点に国際的な活躍を続ける、日本を代表するメゾソプラノ歌手。東京藝術大学声楽科卒業、同大学大学院及びミュンヘン音楽大学大学院修了。主役級としては日本人で初めてバイロイト音楽祭にデビューし、フリッカ、クンドリー、ブランゲーネ、ワルトラウテ、エルダなどの主役で9シーズン連続出演。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・シャトレ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ヴェローナ歌劇場、バルセロナ・リセウ歌劇場、ザルツブルグ祝祭大劇場等に出演のほか、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、バイエルン放送響、ロンドン響、ロンドン・フィル、パリ管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、スイス・ロマンド管等の世界的なオーケストラと共演している。2002年出光音楽賞、03年芸術選奨文部科学大臣新人賞、07年エクソンモービル音楽賞、13年サントリー音楽賞、14年紫綬褒章をそれぞれ受賞。24年文化功労者に選出。新国立劇場では『ラインの黄金』（01年）と『ワルキューレ』（02年、21年）フリッカ、『ドン・カルロ』エボリ公女（01年）、『神々の黄昏』ヴァルトラウテ（04年）、『イドメネオ』イダマンテ（06年）、『ウェルテル』シャルロット（19年）、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ（24年）に出演。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

エレクトラ:アイレ・アッソーニ（ソプラノ）
Elektra : Aile ASSZONYI

エストニアのドラマティックソプラノ。エストニア・フィルハーモニー室内合唱団でキャリアをスタートした後、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナでオペラデビュー。現在は『タンホイザー』ヴェーヌス／エリーザベト、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、『アイーダ』タイトルロール、『トゥーランドット』タイトルロール、『エレクトラ』タイトルロールなどドラマティックなレパートリーへ移行。これまでにシエナ歌劇場、ウィーン・カンマーオーパー、ノーヴァヤ・オペラ、ベラルーシ国立歌劇場、ラトヴィア国立歌劇場、リトアニア国立歌劇場、グラーツ歌劇場、レーゲンスブルク歌劇場、ボン歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラなどへ出演。2023/2024シーズンはフランクフルト歌劇場へ『エレクトラ』タイトルロールでデビューし、バイロイト音楽祭へは『神々の黄昏』グートルーネでデビュー。タリンのブリギッタ音楽祭では『トリスタンとイゾルデ』のイゾルデ、インスブルック・チロル州立劇場、エアフルト歌劇場『エレクトラ』に出演。2024/2025シーズンは、ベルサイユ・オペラ、フランクフルト歌劇場で『ワルキューレ』ブリュンヒルデ、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』に出演する。新国立劇場初登場。

クリソテミス:ヘドヴィグ・ハウゲルド（ソプラノ）
Chrysothemis : Hedvig HAUGERUD

ノルウェー音楽アカデミーを卒業後、パリ国立高等音楽院、コペンハーゲンのオペラ・アカデミーで研鑽を積んだ。類まれな声色、力強さ、個性で、キャリアの初期段階から際立った存在感を示している。2023年パリ・オペラ座コンクール第2位、ミルヤム・ヘリン国際声楽コンクールプレス審査員賞、24年ラウリッツ・メルヒオール国際歌唱コンクール第1位。アンネ・ゾフィー・フォン・オッター、ボー・スコウフス、ソイレ・イソコスキ、ランディ・ステーネに師事。ドブルグ財団から研究助成金を授与され、スカーゲン・タレント・アワード2019を受賞した。23/24シーズンは、ベルゲン・フィルハーモニック・ユース・オーケストラのスペインツアーでグリーグの歌曲を歌い、キリル・ペトレンコ指揮ベルゲン・フィルハーモニック管弦楽団とのコンサートで『エレクトラ』第4の侍女を歌ったほか、メス・メトロポール歌劇場で『サロメ』タイトルロールに出演。ノルウェー国立オペラ『エレクトラ』第5の侍女、トーマス・セナゴー指揮デンマーク王立オペラの『エレクトラ』などにも出演している。デンマーク王立歌劇場では『椿姫』アンニーナ、スウェーデンでは『仮面舞踏会』アメーリアに出演している。新国立劇場初登場。

エギスト:工藤和真（テノール）
Aegisth : KUDO Kazuma

岩手県出身。東京藝術大学卒業。同大学院修了。第1回かわさき新人声楽コンクール第1位、第84回日本音楽コンクール声楽部門第2位。第53回日伊声楽コンコルソ第1位、及び歌曲賞を受賞。第17回東京音楽コンクール声楽部門第2位（最高位）、及び聴衆賞を受賞。2024年5月にイタリアで開催された第3回ジュディッタ・パスタ国際声楽コンクールでは第3位を獲得。これまでに日生劇場『トスカ』カヴァラドッシ、『カプレーティとモンテッキ』テバルド、藤沢市民オペラ『ナブッコ』イズマエーレ、全国共同制作オペラ『ラ・ボエーム』ロドルフォなどで出演。新国立劇場では『ボリス・ゴドゥノフ』グリゴリー・オトレピエフ（偽ドミトリー）、鑑賞教室『ラ・ボエーム』ロドルフォ、鑑賞教室『トスカ』カヴァラドッシに出演。

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

オレスト：エギルス・シリンス（バス・バリトン）
Orest : Egils SILINS

ラトヴィア出身。ラトヴィア国立歌劇場でデビュー後、ウィーン国立歌劇場にデビュー。ブレゲンツ音楽祭『デーモン』タイトルロールで称賛され、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル、グラインドボーン音楽祭などの著名音楽祭に出演。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、リセウ大劇場、テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに定期的に登場。「ニーベルングの指環」ヴォータン／さすらい人、『パルジファル』クリングゾル、アムフォルタス、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『サロメ』ヨハナーン、『エレクトラ』オレスト、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピアなどレパートリーは90に及ぶ。最近の出演に、バイロイト音楽祭『ラインの黄金』ヴォータン、ウィーン国立歌劇場『ローエングリン』テルラムント、英国ロイヤルオペラ『フィデリオ』ドン・フェルナンド、デンマーク王立歌劇場『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、ラトヴィア国立歌劇場『椿姫』ジェルモン、ビルバオ・オペラ『サムソンとデリラ』大祭司、ヴィースバーデン五月音楽祭『エレクトラ』オレスト、ベルリン・ドイツ・オペラ『さまよえるオランダ人』タイトルロールなどがある。新国立劇場では2014年『パルジファル』アムフォルタス、23年『ホフマン物語』悪役四役、24年『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナールに出演している。

監視の女：森谷真理（ソプラノ）
Die Aufseherin : MORIYA Mari

武蔵野音楽大学・大学院、マネス音楽院卒業。『魔笛』夜の女王でメトロポリタン歌劇場デビュー。ウィーン・フォルクスオーパー、ライプツィヒ歌劇場などに出演するほか、リンツ州立劇場の専属歌手として『ラクメ』『マリア・ストゥアルダ』タイトルロール、ザクセン州立歌劇場『蝶々夫人』タイトルロールなど数多く出演。国内でも二期会『蝶々夫人』『サロメ』タイトルロール、びわ湖ホール『神々の黄昏』グートルーネ、『ローエングリン』エルザ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エファ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ばらの騎士』元帥夫人などに出演。新国立劇場では『カルメン』フラスキータ、『ばらの騎士』マリアンネ、『ジュリオ・チェーザレ』クレオパトラ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』タイトルロールに出演。

令和 7 年度公演
〈3演目12公演〉

2025 年 5 月　　新制作
新国立劇場 こどものためのオペラ劇場 2025

オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん

Let's Make an Opera! The Little Sweep｜**B．ブリテン**
4回公演

2025 年 7 月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025
（新国立劇場公演）

蝶々夫人

Madama Butterfly｜**G．プッチーニ**
6回公演

2025 年 10 月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025
（ロームシアター京都公演）

魔笛

Die Zauberflöte｜**W．A．モーツァルト**
2回公演

新国立劇場 こどものためのオペラ劇場 2025

2025 年 5/5～5/6
＜新制作＞

オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん

●会員先行販売期間：2025年2/11（火・祝）～2/20（木）
●一般発売日：2025年3/9（日）

Let's Make an Opera! The Little Sweep

小劇場｜ 4 回公演 ｜ 日本語上演

初演：1949年6月14日／ジュビリー・ホール
作曲：ベンジャミン・ブリテン
台本：エリック・クロージャー
訳詞・脚色：加藤 直

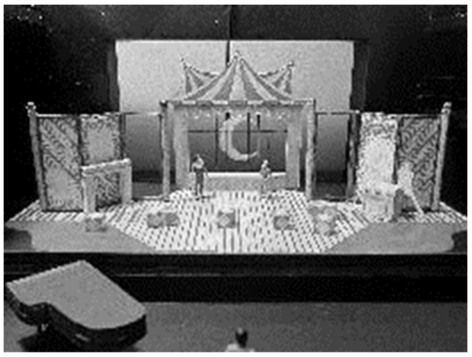
プロダクションについて

子どもたちに優れた生の舞台芸術を届け、オペラの楽しさを体験する機会を提供する「こどものためのオペラ劇場」の14年ぶりの登場です。イギリスを代表する作曲家ブリテンの舞台への愛と子どもたちへの眼差しから生まれた名作『オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん』を新制作し、ゴールデンウィークにお届けします。

ブリテンは子どものための作品をライフワークとし、世界中で音楽鑑賞教材として親しまれている管弦楽曲『青少年のための管弦楽入門』でも知られています。『小さなエントツそうじ屋さん』には、客席の子どもたちが歌うためのとっておきの洒脱な曲が含まれ、子どもたちを自然とオペラの世界へ誘います。

『オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん』には子どもも大人も出演します。子どもたちと大人の対話からオペラ創りが始まる劇が第１部、客席の観客も一緒に歌って参加する「リハーサル」が第２部、そして皆で創り上げたオペラ『小さなエントツそうじ屋さん』が第３部として構成されていて、子どもたちを自然と巻き込んでオペラへ誘う趣向が、いっそうの楽しさと一体感、達成感をもたらします。

『小さなエントツそうじ屋さん』の物語は、煙突掃除として働かされている幼い男の子サムに出会ったお屋敷の子どもたちが、サムを助けようと力をあわせて作戦を遂行する救出劇。子どもたちが生のオペラに触れ、想像力を目一杯働かせて共感し、親子で感動を共有するかけがえのない時間をお届けします。



「オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん」
舞台装置模型

本公演の制作費の一部に、インターネット小口寄附の使途としてオペラ公演をご指定いただいた寄附金を充てさせていただきます。

『小さなエントツそうじ屋さん』あらすじ

小さな男の子サムは、意地のわるい男ボブとクレムのもとで、エントツそうじの仕事をさせられている。ある日エントツに入ってそうじをしていたサムは、体がはさまって出られなくなってしまう。エントツから聞こえるさけび声に気づいた、その家の子どもたち――ジュリエット、ソフィー、ゲイ、そしていとこのジョンにヒューとティナ――は、中に男の子がいるのにびっくり。みんなでサムを引っぱり出してボブとクレムに見つからないようにかくし、すすだらけの体をおふろでピカピカにあらい、食べ物を食べさせる。サムからつらい生活の話を聞いた子どもたちは、何とかしてサムをボブとクレムから助け出して家へ帰そうと、サムをにがす作戦を立て始めた……。

ベンジャミン・ブリテン

新国立劇場 こどものためのオペラ劇場 2025

オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん

Opera for Children
Benjamin BRITTEN / Let's Make an Opera! The Little Sweep
日本語上演

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	冨平恭平 TOMIHIRA Kyohei
上演台本・演出 Script and Production	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	澤田康子 SAWADA Yasuko
美術 Set Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	長田佳代子 NAGATA Yoshiko
衣裳 Costume Coordinator	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	加藤寿子 KATO Hisako
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	川口雅弘 KAWAGUCHI Masahiro
音響 Sound Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	河原田健児 KAWARADA Kenji

		（5月5日・6日 11:00）	（5月5日・6日 15:00）
ボブ/トム Black Bob/Tom	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	秋本 健 AKIMOTO Ken	田中雅史 TANAKA Masafumi
クレム/アルフレード Clem/Alfred	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中川誠宏 NAKAGAWA Masahiro	高橋拓真 TAKAHASHI Takuma
ミス・バゴット Miss Baggott	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	立川かずさ TACHIKAWA Kazusa	松浦 麗 MATSUURA Rei
ジュリエット・ブルック Juliet Brook	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中村麻梨絵 NAKAMURA Marie	和田しほり WADA Shihori
ゲイ・ブルック Gay Brook	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	島内菜々子 SHIMAUCHI Nanako	重田 栞 SHIGETA Shiori
ローワン Rowan	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	川越未晴 KAWAKOSHI Miharu	岩本麻里 IWAMOTO Mari
ジョン・クローム Jonny Crome	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	前川依子 MAEKAWA Yoriko	齊藤日向 SAITO Hina

ほか サム、ソフィー・ブルック、ヒュー・クローム、ティナ・クローム

演奏 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場こどもオペラ・アンサンブル（東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる） Kids' Opera Ensemble
ピアノ Piano	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	古瀬安子、下村 景 FURUSE Yasuko, SHIMOMURA Kei

後 援: 渋谷区教育委員会、東京都公立小学校長会、東京私立初等学校協会

特別協賛: 京王電鉄株式会社、株式会社 タカラトミー

協 賛: 株式会社 小学館、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社、三菱重工機械システム株式会社

2025年	5月	5日（月・祝）11:00	5日（月・祝）15:00
		6日（火・休）11:00	6日（火・休）15:00

【チケット料金】 こども（4歳から小学生）2,750円／大人（中学生以上）5,500円

【　会 場　】 小劇場

主要キャスト・スタッフ　プロフィール

指揮：冨平恭平
Conductor : TOMIHIRA Kyohei

東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。指揮を高関健、田中良和、小野田宏之の各氏の師事。これまでに群馬交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団などを指揮。オペラでは新国立劇場、東京二期会、藤原歌劇団などの公演で副指揮者、合唱指揮者などを務めている。2010年8月から新国立劇場音楽スタッフ。19年4月より新国立劇場合唱指揮者。

上演台本・演出：澤田康子
Script and Production : SAWADA Yasuko

国立音楽大学卒業、東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース修了。新国立劇場をはじめ多くの公演で演出助手として活躍するとともに、地方を中心にオペラの演出を行う。また、二期会オペラ研修所等で後進の指導にもあたっている。新国立劇場演出チーフ。

美術：長田佳代子
Set Design : NAGATA Yoshiko

1999年舞台美術家・島次郎氏に師事。2009年文化庁芸術家海外研修員としてドイツの劇場で研修。演劇を中心にコメディーから重厚な海外戯曲まで幅広く手がける。東京造形大学非常勤講師。2010年、第37回伊藤熹朔賞新人賞受賞。2012年、第39回伊藤熹朔賞受賞。2022年第29回、2023年第30回と二年連続で読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞。

2025 年 7/7～7/12
＜レパートリー＞
Repertory

蝶々夫人

Madama Butterfly

●高校生以下発売日：2025年6/8（日）
●一般発売日：2025年6/22（日）

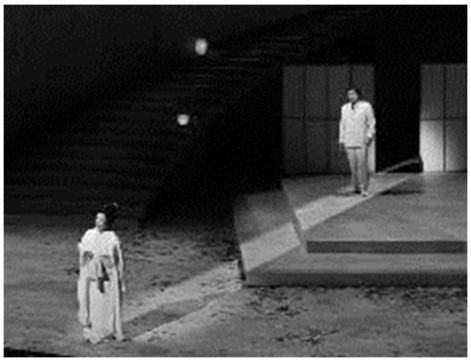
オペラパレス｜ 6回公演 ｜ 全2幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

初演：1904年2月17日／ミラノ・スカラ座
作曲：ジャコモ・プッチーニ
原作：デーヴィッド・ベラスコ
台本：ジュゼッペ・ジャコーザ、ルイージ・イッリカ

プロダクションについて

新国立劇場「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及を目指す新国立劇場が、次の世代を担う青少年に向け優れた舞台芸術を提供する機会として1998年（平成10年）より開催している事業です。「初めてのオペラ鑑賞だからこそ、本物のオペラを体験していただきたい」という願いを込めて、演出、舞台美術、衣裳など本公演と全く同じプロダクションを上演。日本を代表するオペラ歌手が出演し、生のオーケストラ演奏で上演しています。高校生を学生扱いせず、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくというコンセプトが大変好評をいただいております。

『蝶々夫人』はオペラ鑑賞教室でも最も上演の多い作品で、これまでに、東京公演で11回、関西公演で7回上演されています。長崎を舞台に、アメリカ海軍士官の夫・ピンカートンへの一途な愛を貫いた蝶々さんの悲劇を描いたオペラは、初めてオペラを鑑賞する高校生にも深い共感を呼びます。栗山民也の演出は、死をもって愛を貫いた蝶々さんの世界をシンプルながらスケールの大きな舞台で描くもので、人物の内面を鮮やかに描写する演出が、多感な高校生の想像力を大いに刺激し、オペラへの興味を喚起すると好評を博しています。



2011 年公演より

あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。日本滞在中、現地妻を娶ろうというアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに新居を案内され、使用人を紹介される。結婚も家もいつでも契約破棄できると豪語するピンカートン。結婚を心待ちにしている花嫁を知るアメリカ総領事シャープレスは、ピンカートンの軽薄さを心配する。花嫁行列がやってきて、美しい花嫁、蝶々さんが現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは15歳。裕福な武士の家の生まれだが父が切腹して亡くなり、今は芸者として生きている。結婚式が慎ましやかに行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2人は甘い夜を迎える。

【第2幕】ピンカートンがアメリカに帰国して3年。「駒鳥が巣を作る頃に帰る」との言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは再婚を勧めるが、蝶々さんは断る。というのも、ピンカートンとの間に子供が生まれていたのだ。帰国後ピンカートンがアメリカで本当の結婚をしたことを知るシャープレスは言葉もない。そしてついにピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花で満たして夫の到着を待つが、いつまでたってもやってこない。
スズキの勧めで蝶々さんが奥の部屋で休んでいると、ピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケートが訪れる。スズキの応対で蝶々さんの思いを知ったピンカートンは、堪らず立ち去る。目覚めた蝶々さんはケートを見てすべてを悟り、子供をアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子供に別れを告げ、自決。「蝶々さん！」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。

ジャコモ・プッチーニ

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025

蝶々夫人

Giacomo PUCCINI / Madama Butterfly

全 2 幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	城谷正博 JOYA Masahiro
演出 Production	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	栗山民也 KURIYAMA Tamiya
美術 Set Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	島 次郎 SHIMA Jiro
衣裳 Costume Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	前田文子 MAEDA Ayako
照明 Lighting Design	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	勝柴次朗 KATSUSHIBA Jiro

		（7月7日・9日・11日）	（7月8日・10日・12日）
蝶々夫人 Madama Butterfly	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	伊藤 晴 ITO Hare	鈴木麻里子 SUZUKI Mariko
ピンカートン Pinkerton	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	村上公太 MURAKAMI Kota	城 宏憲 JO Hironori
シャープレス Sharpless	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	近藤 圭 KONDO Kei	大沼 徹 ONUMA Toru
スズキ Suzuki	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	花房英里子 HANAFUSA Eriko	但馬由香 TAJIMA Yuka
ゴロー Goro	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	糸賀修平 ITOGA Shuhei	内山信吾 UCHIYAMA Shingo
ボンゾ Lo zio Bonzo	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	三戸大久 SANNOHE Hirohisa	斉木健詞 SAIKI Kenji
ヤマドリ Il principe Yamadori	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi	畠山 茂 HATAKEYAMA Shigeru
ケート Kate Pinkerton	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	佐藤路子 SATO Michiko	杉山由紀 SUGIYAMA Yuki

合唱 Chorus	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

助 成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協 賛：ローム株式会社 SOMPO 損保ジャパン

2025年 7月	7日（月）13:00	8日（火）13:00	9日（水）13:00
	10日（木）13:00	11日（金）13:00	12日（土）13:00

【チケット料金】 2,750円（高校生及び引率教員【学校団体】）

残席がある公演日に限り前売販売：2,750円（高校生以下）／6,600円（一般［大人］）

【 会 場 】 オペラパレス

2025年 10/28〜10/29
＜レパートリー＞
Repertory

魔笛

Die Zauberflöte

ロームシアター京都 メインホール｜ 2回公演 ｜ 全2幕〈ドイツ語上演／日本語字幕付〉

初演：1791年9月30日／アウフ・デア・ヴィーデン劇場
作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
台本：エマヌエル・シカネーダー

プロダクションについて

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は2008年から関西公演が始まり、2016年からはロームシアター京都へ会場を移し、『フィガロの結婚』『蝶々夫人』『魔笛』『ドン・パスクワーレ』と上演を重ねてきました。『魔笛』の京都での上演は4回目。“ジングシュピール”（歌芝居）として親しみやすいこの作品は、「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲や、夜の女王の有名なアリアなど、聴きどころが満載です。

ウィリアム・ケントリッジ演出のこのプロダクションは、ケントリッジならではの人間哲学に満ち、ビジュアルアートとしての迫力も相まって、観客に多くの問いを投げかけます。ケントリッジは日本で初の大規模展覧会（京都国立近代美術館）、京都賞受賞など京都の地とも縁が深く、上演の都度大きな反響を呼んでいます。

2018年公演より

あらすじ

【第1幕】森で大蛇に襲われ、気絶してしまった王子タミーノ。そこに夜の女王に仕える3人の侍女がやってきて、大蛇を退治し立ち去る。タミーノが目覚めると大蛇が死んでいるのにびっくり。やってきた鳥刺しのパパゲーノに尋ねてみると、大蛇を退治したのは自分だと誇らしげに語る。が、それは嘘で、罰として3人の侍女がパパゲーノの口に鍵をかけてしまう。3人の侍女は、夜の女王の娘パミーナの肖像画をタミーノに見せ、邪悪なザラストロにさらわれた彼女を救ってほしいと訴える。パミーナの肖像に一目惚れしたタミーノは引き受ける。夜の女王はタミーノに魔法の笛、口の鍵の解けたパパゲーノに銀の鈴を授ける。
ザラストロの神殿にいるパミーナのもとにパパゲーノが行き、タミーノが助けにくることを伝える。喜ぶパミーナ。タミーノは神殿の門に到着するが、弁者によれば、ザラストロは暴君ではなく賢人で、高慢な夜の女王からパミーナをかくまっているのだという。そしてザラストロが登場。タミーノとパパゲーノは神殿に招き入れられる。

【第2幕】タミーノは、徳と正義を得るため試練を受けることになる。これを経れば妻に会えると言われたパパゲーノも、しぶしぶ同行する。一方パミーナのもとには夜の女王が現れ、ザラストロを殺せと命じて短剣を渡す。悩むパミーナに、ザラストロは、神殿では愛だけが暴力に打ち勝つ、と語る。タミーノとパパゲーノの最初の試練は、喋ってはいけない「沈黙」の試練。タミーノはパミーナとも喋れず、次の試練のため彼女と別れねばならない。彼の態度にパミーナは絶望して自殺をはかるが、3人の童子が止める。その後タミーノとパミーナは再会し、最後の「火」「水」の試練を2人で乗り越える。女房がほしいとぼやくパパゲーノは試練などお構いなしだが、努力は認められ、伴侶のパパゲーナと出会う。夜の女王たちは滅び、ザラストロ、タミーノ、パミーナたちは神を讃える。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025
魔笛

Wolfgang Amadeus MOZART / Die Zauberflöte
全2幕〈ドイツ語上演／日本語字幕付〉

指揮 Conductor	城谷正博 JOYA Masahiro
演出 Production	ウィリアム・ケントリッジ William KENTRIDGE
美術 Set Design	ウィリアム・ケントリッジ William KENTRIDGE ザビーネ・トイニッセン Sabine THEUNISSEN
衣裳 Cosutume Design	グレタ・ゴアリス Greta GOIRIS
照明 Lighting Design	ジェニファー・ティプトン Jennifer TIPTON
プロジェクション Projection Design	キャサリン・メイバーグ Catherine MEYBURGH
ザラストロ Sarastro	斉木健詞 SAIKI Kenji
タミーノ Tamino	糸賀修平 ITOGA Shuhei
弁者・僧侶Ⅰ・武士Ⅱ Sprecher / Erster Priester / Zweiter Geharnischter	清水宏樹 SHIMIZU Hiroki
僧侶Ⅱ・武士Ⅰ Zweiter Priester / Erster Geharnischter	水野 優 MIZUNO Yu
夜の女王 Königin der Nacht	梅津 碧 UMETSU Midori
パミーナ Pamina	九嶋香奈枝 KUSHIMA Kanae
侍女Ⅰ Erste Dame	今野沙知恵 KONNO Sachie
侍女Ⅱ Zweite Dame	宮澤彩子 MIYAZAWA Ayako
侍女Ⅲ Dritte Dame	石井 藍 ISHII Ai
パパゲーナ Papagena	種谷典子 TANETANI Noriko
パパゲーノ Papageno	駒田敏章 KOMADA Toshiaki
モノスタトス Monostatos	高畠伸吾 TAKABATAKE Shingo
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

Production of Aix-en-Provence Festival and Rouen Opera,
created at Théâtre de la Monnaie in 2005

主　催:　京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場

助　成:　公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

協　賛:　ローム株式会社

2025年	10月	28日(火)13:00	29日(水)13:00

【チケット料金】　2,200円(高校生及び引率教員【学校団体】)
残席がある公演日に限り、高校生以下、一般販売を行います。

【　会　場　】　ロームシアター京都 メインホール

Opera

公演一覧

開場記念公演～2024/2025 シーズン

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU*	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	1997.10/10
	ローエングリン*	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	1997.11/22
	アイーダ*	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバッロ	フランコ・ゼッフィレッリ	1998.01/15
1998/1999	蝶々夫人*	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998.04/08
	魔笛*	W.A.モーツァルト	大野和士	ミヒャエル・ハンペ	1998.05/06
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	1998.06/18
	アラベッラ*	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	1998.09/19
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1998.10/09
	ヘンゼルとグレーテル*	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	1998.11/27
	カルメン*	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	1999.01/19
	天守物語*	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	1999.02/13
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	北原幸男	寺崎裕則	1999.04/21
	罪と罰*	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	1999.06/18
1999/2000	仮面舞踏会*	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ	1999.09/21
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1999.11/06
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュテイ	栗山昌良	1999.12/18
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	2000.01/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロッリ	粟國淳／ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	2000.02/20
	沈黙*	松村禎三	星出 豊	中村敬一	2000.03/16
	サロメ*	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファーディング	2000.04/11
	ドン・キショット*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	2000.05/07
	リゴレット*	G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッシーニ	2000.06/11
2000/2001	トスカ*	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2000.09/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミヒャエル・ハンペ	2000.10/10
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ポクロフスキー／ヴェラ・カルパチョワ	2000.10/30
	青ひげ公の城*	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2000.11/24
	夕鶴*	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	2000.12/02
	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	2001.01/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロッリ	アルベルト・ファッシーニ	2001.02/05
	ラインの黄金*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2001.03/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	2001.05/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	2001.06/07
	マノン*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ポネル	2001.07/05
2001/2002	トゥーランドット*	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	2001.09/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2001.11/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	2001.11/16
	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2001.12/06
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	2002.01/10
	忠臣蔵*	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	2002.01/25
	ウェルテル*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	2002.02/21
	ワルキューレ*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2002.03/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファーディング	2002.05/01
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2002.05/02
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2002.06/07

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2002/2003	椿姫*	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	2002.09/05
	ルチア*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴィンチェンツォ・グリゾストミ・トラヴァリーニ	2002.10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロッリ	粟國 淳	2002.10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッラ	アルベルト・ファッシーニ	2002.11/21
	ナクソス島のアリアドネ*	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	2002.12/12
	光*	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	2003.01/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	2003.01/31
	ジークフリート*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2003.03/27
	ラ・ボエーム*	G.プッチーニ	アントニオ・ピロッリ	粟國 淳	2003.04/19
	オテロ*	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	2003.06/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	2003.09/14
2003/2004	フィガロの結婚*	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2003.10/10
	トスカ	G.プッチーニ	ジェラール・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2003.11/09
	ホフマン物語*	G.オッフェンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2003.11/28
	鳴神*／俊寛*	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	2004.01/30
	スペインの燦き*	M.ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	2004.02/18
	サロメ	R.シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファーディンク	2004.02/27
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2004.03/26
	マクベス*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	2004.05/13
	ファルスタッフ*	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2004.06/25
	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004.06/28
2004/2005	カヴァレリア・ルスティカーナ*／道化師*	P.マスカーニ／R.レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	2004.09/09
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	井上道義	粟國 淳	2004.09/25
	エレクトラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	2004.11/11
	椿姫	G.ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	2004.11/22
	マクベス	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	2005.01/17
	ルル*	A.ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	2005.02/08
	おさん―「心中天網島」より*	久保摩耶子	神田慶一	粟國 淳	2005.02/25
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レプシュレーガー	2005.03/21
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	2005.04/07
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2005.05/28
	蝶々夫人*	G.プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	2005.06/24
2005/2006	ニュルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	2005.09/14
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2005.10/14
	アンドレア・シェニエ*	U.ジョルダーノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	2005.11/20
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2005.11/27
	魔笛	W.A.モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	2006.01/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レプシュレーガー	2006.02/04
	愛怨*	三木 稔	大友直人	恵川智美	2006.02/17
	運命の力*	G.ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	2006.03/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師	P.マスカーニ／R.レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイージ	グリシャ・アサガロフ	2006.04/05
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	2006.06/14

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2006/2007	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2006.09/07
	イドメネオ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	2006.10/20
	フィデリオ	L.v.ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2006.11/30
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	ミケーレ・カルッリ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2006.12/01
	さまよえるオランダ人*	R.ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2007.02/25
	運命の力	G.ヴェルディ	マウリツィオ・バルバチーニ	エミリオ・サージ	2007.03/15
	蝶々夫人	G.プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	2007.03/22
	西部の娘*	G.プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2007.04/15
	ばらの騎士*	R.シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	2007.06/06
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2007.06/13
2007/2008	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦*	R.ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	2007.10/08
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2007.10/18
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鵜山 仁	2007.11/25
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	マウリツィオ・バルバチーニ	粟國 淳	2008.01/20
	サロメ	R.シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファーディング	2008.02/03
	黒船 ―夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	2008.02/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼッフィレッリ	2008.03/10
	魔弾の射手*	C.M.v.ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	2008.04/10
	軍人たち*	B.A.ツィンマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	2008.05/05
	椿姫	G.ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	2008.06/05
2008/2009	トゥーランドット*	G.プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	2008.10/01
	リゴレット	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2008.10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	グリシャ・アサガロフ	2008.12/05
	蝶々夫人	G.プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	2009.01/12
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	2009.01/27
	ラインの黄金	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009.03/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009.04/03
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D.ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	2009.05/01
	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ポネル	2009.06/07
	修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	2009.06/25
2009/2010	オテロ*	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	2009.09/20
	魔笛	W.A.モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒャエル・ハンペ	2009.10/29
	ヴォツェック*	A.ベルク	ハルトムート・ヘンヒェン	アンドレアス・クリーゲンブルク	2009.11/18
	トスカ	G.プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2009.12/02
	ジークフリート	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010.02/11
	神々の黄昏	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010.03/18
	愛の妙薬*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	2010.04/15
	影のない女*	R.シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	2010.05/20
	カルメン	G.ビゼー	マウリツィオ・バルバチーニ	鵜山 仁	2010.06/10
	鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鵜山 仁	2010.06/24
2010/2011	アラベッラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	2010.10/02
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ミヒャエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	2010.10/10
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2010.11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2010.12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	2011.02/04
	椿姫	G.ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	2011.02/14
	マノン・レスコー*（公演中止）	G.プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R.シュトラウス	マンフレッド・マイヤーホーファー	ジョナサン・ミラー	2011.04/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	ダミアーノ・ミキエレット	2011.05/29
	蝶々夫人	G.プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	2011.06/06

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2011/2012	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ペータース	2011.10/02
	サロメ	R.シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファーディング	2011.10/09
	ルサルカ*	A.ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラン	2011.11/23
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	2011.12/01
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	コンスタンティン・トリンクス	粟國 淳	2012.01/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2012.02/15
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	2012.03/08
	オテロ	G.ヴェルディ	ジャン・レイサム＝ケーニック	マリオ・マルトーネ	2012.04/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	エンリケ・マッツォーラ	グリシャ・アサガロフ	2012.04/19
	ローエングリン*	R.ワーグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2012.06/01
2012/2013	ピーター・グライムズ*	B.ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	2012.10/02
	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2012.11/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	カルロ・モンタナーロ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2012.11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R.ワーグナー	コンスタンティン・トリンクス	ハンス＝ペーター・レーマン	2013.01/23
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チェーザレ・リエヴィ	2013.01/31
	アイーダ	G.ヴェルディ	ミヒャエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレッリ	2013.03/11
	魔笛	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒャエル・ハンペ	2013.04/14
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	2013.05/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	イヴ・アベル	ダミアーノ・ミキエレット	2013.06/03
	夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	2013.06/25
2013/2014	リゴレット*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	アンドレアス・クリーゲンブルク	2013.10/03
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2013.10/20
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2013.11/28
	カルメン	G.ビゼー	アイナルス・ルビキス	鵜山 仁	2014.01/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ケリー＝リン・ウィルソン	栗山民也	2014.01/30
	死の都*	E.W.コルンゴルト	ヤロスラフ・キズリンク	カスパー・ホルテン	2014.03/12
	ヴォツェック	A.ベルク	ギュンター・ノイホルト	アンドレアス・クリーゲンブルク	2014.04/05
	カヴァレリア・ルスティカーナ*／道化師*	P.マスカーニ／R.レオンカヴァッロ	レナート・パルンボ	ジルベール・デフロ	2014.05/14
	アラベッラ	R.シュトラウス	ベルトラン・ド・ビリー	フィリップ・アルロー	2014.05/22
	鹿鳴館	池辺晋一郎	飯森範親	鵜山 仁	2014.06/19
2014/2015	パルジファル*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ハリー・クプファー	2014.10/02
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	グリシャ・アサガロフ	2014.10/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2014.11/27
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2015.01/18
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2015.01/29
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	ピエール・ジョルジョ・モランディ	ジルベール・デフロ	2015.03/09
	運命の力	G.ヴェルディ	ホセ・ルイス・ゴメス	エミリオ・サージ	2015.04/02
	椿姫*	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ヴァンサン・ブサール	2015.05/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	シュテファン・ショルテス	ジョナサン・ミラー	2015.05/24
	沈黙	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2015.06/27
2015/2016	ラインの黄金*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2015.10/01
	トスカ	G.プッチーニ	エイヴィン・グルベルグ・イェンセン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2015.11/17
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ジョナサン・ミラー	2015.12/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	ロベルト・パーテルノストロ	ミヒャエル・ハンペ	2016.01/24
	イェヌーファ*	L.ヤナーチェク	トマーシュ・ハヌス	クリストフ・ロイ	2016.02/28
	サロメ	R.シュトラウス	ダン・エッティンガー	アウグスト・エファーディング	2016.03/06
	ウェルテル*	J.É.F.マスネ	エマニュエル・プラッソン	ニコラ・ジョエル	2016.04/03
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	ヤデル・ビニャミーニ	フィリップ・アルロー	2016.04/14
	ローエングリン	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2016.05/23
	夕鶴	團 伊玖磨	大友直人	栗山民也	2016.07/01

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2016/2017	ワルキューレ*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2016.10/02
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・アリヴァベーニ	粟國 淳	2016.11/17
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	フランチェスコ・アンジェリコ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2016.11/27
	カルメン	G.ビゼー	イヴ・アベル	鵜山 仁	2017.01/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	フィリップ・オーギャン	栗山民也	2017.02/02
	ルチア*	G.ドニゼッティ	ジャンパオロ・ビザンティ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2017.03/14
	オテロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マリオ・マルトーネ	2017.04/09
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	アンドレアス・ホモキ	2017.04/20
	ジークフリート*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017.06/01
2017/2018	神々の黄昏*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017.10/01
	椿姫	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	ヴァンサン・ブサール	2017.11/16
	ばらの騎士	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ジョナサン・ミラー	2017.11/30
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2018.01/18
	松風*	細川俊夫	デヴィッド・ロバート・コールマン	サシャ・ヴァルツ	2018.02/16
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	セバスティアン・ルラン	フィリップ・アルロー	2018.02/28
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	フレデリック・シャスラン	チェーザレ・リエヴィ	2018.03/14
	アイーダ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	フランコ・ゼッフィレッリ	2018.04/05
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	飯守泰次郎	カタリーナ・ワーグナー	2018.05/20
	トスカ	G.プッチーニ	ロレンツォ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018.07/01
2018/2019	魔笛*	W.A.モーツァルト	ローラント・ベーア	ウィリアム・ケントリッジ	2018.10/03
	カルメン	G.ビゼー	ジャン＝リュック・タンゴー	鵜山 仁	2018.11/23
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	ジョナサン・ミラー	2018.12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アッシャー・フィッシュ	ハンス＝ペーター・レーマン	2019.01/27
	紫苑物語*	西村 朗	大野和士	笈田ヨシ	2019.02/17
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	ポール・ダニエル	ニコラ・ジョエル	2019.03/19
	フィレンツェの悲劇* /ジャンニ・スキッキ*	A.ツェムリンスキー / G.プッチーニ	沼尻竜典	粟國 淳	2019.04/07
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	カーステン・ヤヌシュケ	グリシャ・アサガロフ	2019.05/17
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ドナート・レンツェッティ	栗山民也	2019.06/01
	トゥーランドット*	G.プッチーニ	大野和士	アレックス・オリエ	2019.07/18
2019/2020	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	アンドリー・ユルケヴィチ	ドミトリー・ベルトマン	2019.10/01
	ドン・パスクワーレ*	G.ドニゼッティ	コッラード・ロヴァーリス	ステファノ・ヴィツィオーリ	2019.11/09
	椿姫	G.ヴェルディ	イヴァン・レプシッチ	ヴァンサン・ブサール	2019.11/28
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・カリニャーニ	粟國 淳	2020.01/24
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2020.02/06
	コジ・ファン・トゥッテ（公演中止）	W.A.モーツァルト	パオロ・オルミ	ダミアーノ・ミキエレット	
	ジュリオ・チェーザレ*（公演中止）	G.F.ヘンデル	リナルド・アレッサンドリーニ	ロラン・ペリー	
	ホフマン物語（公演中止）	J.オッフェンバック	マルコ・レトーニャ	フィリップ・アルロー	
	サロメ（公演中止）	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリンクス	アウグスト・エファーディング	
	ニュルンベルクのマイスタージンガー* （公演中止）	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク	
2020/2021	夏の夜の夢*	B.ブリテン	飯森範親	レア・ハウスマン （デイヴィッド・マクヴィカーの演出に基づく）	2020.10/04
	アルマゲドンの夢*	藤倉 大	大野和士	リディア・シュタイアー	2020.11/15
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	クリストファー・フランクリン	ハインツ・ツェドニク	2020.11/29
	トスカ	G.プッチーニ	ダニエレ・カッレガーリ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2021.01/23
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2021.02/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	大野和士／城谷正博	ゲッツ・フリードリヒ	2021.03/11
	夜鳴きうぐいす* /イオランタ*	I.ストラヴィンスキー / P.チャイコフスキー	高関 健	ヤニス・コッコス	2021.04/04
	ルチア	G.ドニゼッティ	スペランツァ・スカップッチ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2021.04/18
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2021.05/20
	カルメン*	G.ビゼー	大野和士	アレックス・オリエ	2021.07/03

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2021/2022	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	城谷正博	粟國 淳	2021.10/01
	ニュルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク	2021.11/18
	蝶々夫人	G.プッチーニ	下野竜也	栗山民也	2021.12/05
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	ガエタノ・デスピノーサ	マティアス・フォン・シュテークマン	2022.01/26
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ガエタノ・デスピノーサ	チェーザレ・リエヴィ	2022.02/07
	椿姫	G.ヴェルディ	アンドリー・ユルケヴィチ	ヴァンサン・ブサール	2022.03/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	サッシャ・ゲッツェル	ジョナサン・ミラー	2022.04/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	オレグ・カエターニ	ウィリアム・ケントリッジ	2022.04/16
	オルフェオとエウリディーチェ*	C.W.グルック	鈴木優人	勅使川原三郎	2022.05/19
	ペレアスとメリザンド*	C.ドビュッシー	大野和士	ケイティ・ミッチェル	2022.07/02
2022/2023	ジュリオ・チェーザレ*	G.F.ヘンデル	リナルド・アレッサンドリーニ	ロラン・ペリー	2022.10/02
	ボリス・ゴドゥノフ*	M.ムソルグスキー	大野和士	マリウシュ・トレリンスキ	2022.11/15
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	パオロ・オルミ	グリシャ・アサガロフ	2022.12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アレホ・ペレス	ハンス＝ペーター・レーマン	2023.01/28
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	コッラード・ロヴァーリス	ジョナサン・ミラー	2023.02/10
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	マルコ・レトーニャ	フィリップ・アルロー	2023.03/15
	アイーダ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	フランコ・ゼッフィレッリ	2023.04/05
	リゴレット*	G.ヴェルディ	マウリツィオ・ベニーニ	エミリオ・サージ	2023.05/18
	サロメ	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリンクス	アウグスト・エファーディング	2023.05/27
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	大野和士	粟國 淳	2023.06/28
2023/2024	修道女アンジェリカ* /子どもと魔法*	G.プッチーニ / M.ラヴェル	沼尻竜典	粟國 淳	2023.10/01
	シモン・ボッカネグラ*	G.ヴェルディ	大野和士	ピエール・オーディ	2023.11/15
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	パトリック・ハーン	ハインツ・ツェドニク	2023.12/06
	エウゲニ・オネーギン	P.チャイコフスキー	ヴァレンティン・ウリューピン	ドミトリー・ベルトマン	2024.01/24
	ドン・パスクワーレ	G.ドニゼッティ	レナート・バルサドンナ	ステファノ・ヴィツィオーリ	2024.02/04
	トリスタンとイゾルデ	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2024.03/14
	椿姫	G.ヴェルディ	フランチェスコ・ランツィロッタ	ヴァンサン・ブサール	2024.05/16
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	飯森範親	ダミアーノ・ミキエレット	2024.05/30
	トスカ	G.プッチーニ	マウリツィオ・ベニーニ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2024.07/06
2024/2025	夢遊病の女*	V.ベッリーニ	マウリツィオ・ベニーニ	バルバラ・リュック	2024.10/03
	ウィリアム・テル*	G.ロッシーニ	大野和士	ヤニス・コッコス	2024.11/20
	魔笛	W.A.モーツァルト	トマーシュ・ネトピル	ウィリアム・ケントリッジ	2024.12/10
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	マルク・アルブレヒト	マティアス・フォン・シュテークマン	2025.01/19
	フィレンツェの悲劇 /ジャンニ・スキッキ	A.ツェムリンスキー / G.プッチーニ	沼尻竜典	粟國 淳	2025.02/02
	カルメン	G.ビゼー	ガエタノ・デスピノーサ	アレックス・オリエ	2025.02/26
	蝶々夫人	G.プッチーニ	エンリケ・マッツォーラ	栗山民也	2025.05/14
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	コッラード・ロヴァーリス	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2025.05/25
	ナターシャ*	細川俊夫	大野和士	クリスティアン・レート	2025.08/11

★＝新制作

〈高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 10 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998.07/15
平成 11 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	星出 豊	栗山昌良	1999.07/13
平成 12 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	福森 湘	栗山昌良	2000.07/12
平成 13 年度	トスカ	G.プッチーニ	村中大祐	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2001.07/10
平成 14 年度	トスカ	G.プッチーニ	井﨑正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2002.07/12
平成 15 年度	トスカ	G.プッチーニ	佐藤正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2003.07/11
平成 16 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004.07/12
平成 17 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2005.07/11
平成 18 年度	カヴァレリア・ルスティカーナ	P.マスカーニ	岡本和之	グリシャ・アサガロフ	2006.07/10
平成 19 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2007.07/09
平成 20 年度	椿姫	G.ヴェルディ	城谷正博	ルーカ・ロンコーニ	2008.07/11
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2008.11/13
平成 21 年度	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2009.07/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2009.10/15
平成 22 年度	カルメン	G.ビゼー	石坂 宏	鵜山 仁	2010.07/12
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2010.10/27
平成 23 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山民也	2011.07/11
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	石坂 宏	チェーザレ・リエヴィ	2011.10/26
平成 24 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	石坂 宏	粟國 淳	2012.07/12
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2012.10/24
平成 25 年度	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2013.07/10
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2013.10/30
平成 26 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2014.07/09
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2014.11/05
平成 27 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	石坂 宏	栗山民也	2015.07/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2015.10/27
平成 28 年度	夕鶴	團 伊玖磨	城谷正博	栗山民也	2016.07/09
	フィガロの結婚(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	広上淳一	アンドレアス・ホモキ	2016.10/26
平成 29 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2017.07/10
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	高関 健	栗山民也	2017.10/30
平成 30 年度	トスカ	G.プッチーニ	城谷正博	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018.07/06
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2018.10/29
令和 元 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	飯森範親	栗山民也	2019.07/06
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2019.10/28
令和 2 年度	夕鶴(公演中止)	團 伊玖磨	三ツ橋敬子	栗山民也	
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2020.10/27
令和 3 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	アレックス・オリエ	2021.07/09
	ドン・パスクワーレ(於 ロームシアター京都)	G.ドニゼッティ	阪 哲朗	ステファノ・ヴィツィオーリ	2021.10/26
令和 4 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	阪 哲朗	栗山民也	2022.07/08
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	阪 哲朗	栗山民也	2022.10/25
令和 5 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	阪 哲朗	粟國 淳	2023.07/10
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2023.10/26
令和 6 年度	トスカ	G.プッチーニ	園田隆一郎	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2024.07/11
	ドン・パスクワーレ(於 ロームシアター京都)	G.ドニゼッティ	沼尻竜典	ステファノ・ヴィツィオーリ	2024.10/29

〈特別企画〉

年度	公演	作曲	指揮		公演初日
令和 2 年度 (公演中止)	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本:島田雅彦	
令和 3 年度	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本:島田雅彦	2021.08/21

〈小劇場オペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	オルフェオとエウリディーチェ	C.W.グルック	佐藤正浩	岩田達宗	2000.06/25
	幸せな間違い	G.ロッシーニ	星出 豊	粟國 淳	2000.09/07
	アブ・ハッサン／オペラの稽古	C.M.v.ウェーバー／A.ロルツィング	三澤洋史	井上 光	2000.12/23
平成 13 年度	ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2001.04/19
	花言葉	R.ロッセリーニ	宮松重紀	今井伸昭	2001.10/11
	賢い女	C.オルフ	時任康文	伊藤明子	2002.02/07
平成 14 年度	シャーロック・ホームズの事件簿〈告白〉	原 嘉壽子	樋本英一	岩田達宗	2002.04/25
	なりゆき泥棒	G.ロッシーニ	佐藤 宏	恵川智美	2002.09/12
	無人島	F.J.ハイドン	山上純司	井原広樹	2003.01/23
平成 15 年度	ドン・ジョヴァンニ	G.ガッツァニーガ	松岡 究	今井伸昭	2003.05/15
	イタリアのモーツァルト	W.A.モーツァルト	平井秀明	恵川智美	2003.11/13
	外套	G.プッチーニ	神田慶一	粟國 淳	2004.02/05
平成 16 年度	友人フリッツ	P.マスカーニ	渡邊一正	髙岸未朝	2004.06/10
	ザザ	R.レオンカヴァッロ	服部譲二	恵川智美	2005.03/03
平成 17 年度	セルセ	G.F.ヘンデル	平井秀明	三浦安浩	2006.01/12
平成 18 年度	フラ・ディアボロ	D.F.E.オベール	城谷正博	田尾下 哲	2007.02/15

〈演奏会形式公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 20 年度	コンサート・オペラ ペレアスとメリザンド	C.A.ドビュッシー	若杉 弘	若杉 弘（舞台構成）	2008.06/28
平成 21 年度	コンサート・オペラ ポッペアの戴冠	C.モンテヴェルディ	鈴木雅明	鈴木優人・田村吾郎	2009.05/15
平成 23 年度	コジ・ファン・トゥッテ〈演奏会形式〉	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2011.05/15
平成 24 年度	ドン・ジョヴァンニ〈演奏会形式〉	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2012.04/03
平成 26 年度	さまよえるオランダ人〈演奏会形式〉	R.ワーグナー	城谷正博		2015.01/16
平成 29 年度	「ジークフリート」ハイライトコンサート -邦人歌手による-	R.ワーグナー	城谷正博		2017.05/17

〈こどものためのオペラ劇場〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 16 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー「ニーベルングの指環」による	三澤洋史（編曲・指揮）	マティアス・フォン・シュテークマン（台本・演出）	2004.08/06
平成 17 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー「ニーベルングの指環」による	三澤洋史（編曲・指揮）	マティアス・フォン・シュテークマン（台本・演出）	2005.07/30
平成 18 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ「トゥーランドット」による	三澤洋史（編曲・指揮）	田尾下 哲（台本・演出）	2006.07/28
平成 19 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ「トゥーランドット」による	三澤洋史（編曲・指揮）	田尾下 哲（台本・演出）	2007.07/28
平成 20 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー「ニーベルングの指環」による	三澤洋史（編曲・指揮）	マティアス・フォン・シュテークマン（台本・演出）	2008.07/25
平成 21 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー「ニーベルングの指環」による	三澤洋史（編曲・指揮）	マティアス・フォン・シュテークマン（台本・演出）	2009.07/24
平成 23 年度	パルジファルとふしぎな聖杯	R.ワーグナー「パルジファル」による	三澤洋史（編曲・指揮・台本）	三浦安浩（演出）	2011.07/22

〈文化庁芸術祭〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	国際音楽の日記念コンサート オペラ･ガラコンサート	菊池彦典		2000.10/01
平成 18 年度	新国立劇場開場 10 周年記念 オペラ･バレエ ガラ公演	渡邊一正（第一部） ﾌｨﾘｯﾌﾟ･ｵｰｷﾞｬﾝ（第二部）		2007.10/01
平成 21 年度	国際音楽の日記念 メリーメリー･ウィドウ 祝祭版～ちょっと陽気な未亡人～	現田茂夫	飯塚励生	2009.10/01
平成 25 年度	国際音楽の日記念 尾高忠明指揮 新国立劇場合唱団が歌う ベルシャザールの饗宴	尾高忠明		2013.10/01

〈国際交流公演〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 24 年度	2012「日中国民交流友好年」認定行事 オペラ『アイーダ』（コンサート形式）	広上淳一		2012.07/27

〈ニューイヤー オペラパレス ガラ〉

年度	公演	指揮	公演初日
平成 19 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	マウリツィオ･バルバチーニ	2008.01/05
平成 20 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	渡邊一正（バレエ）／菊池彦典（オペラ）	2009.01/05
平成 21 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	大井剛史（バレエ）／菊池彦典（オペラ）	2010.01/05

〈はじめてのオペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 19 年度	カルメン ～楽しいトークとハイライト上演～	G.ビゼー	ジャック･デラコート	鵜山 仁	2007.12/02

〈舞台芸術国際フェスティバル〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 14 年度	舞台芸術国際フェスティバル ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2002.09/28

〈地域招聘公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 17 年度	沈黙（ザ･カレッジ･オペラハウス）	松村禎三	山下一史	中村敬一	2005.09/16
平成 18 年度	ﾌｨｶﾞﾛの結婚（ひろしまオペラルネッサンス）	W.A.モーツァルト	デリック･イノウエ	岩田達宗	2006.10/15
平成 19 年度	ナクソス島のアリアドネ（関西二期会）	R.シュトラウス	飯守泰次郎	松本重孝	2008.01/25
平成 21 年度	月を盗んだ話（札幌室内歌劇場）	C.オルフ	柳澤寿男	中津邦仁	2010.01/13
平成 23 年度	鳴砂（仙台オペラ協会）	岡崎光治	山下一史	岡崎光治	2011.07/30
平成 25 年度	三文オペラ（びわ湖ホール）	K.ワイル	園田隆一郎	栗山昌良	2013.07/12
平成 27 年度	いのち（長崎県オペラ協会）	錦かよ子	星出 豊	星出 豊	2015.07/25
平成 29 年度	ミカド（びわ湖ホール）	A.サリヴァン	園田隆一郎	中村敬一	2017.08/26
令和 2 年度	竹取物語（びわ湖ホール） （公演中止）	沼尻竜典	沼尻竜典	栗山昌良	